

令和7(2025)年度
栃木県交通安全実施計画

栃木県交通安全対策会議

ま え が き

この交通安全実施計画は、交通安全対策基本法(昭和45年法律第110号)の規定に基づき、第11次栃木県交通安全計画(令和3(2021)年度～令和7(2025)年度)を踏まえ、令和7(2025)年度に県、国の指定地方行政機関等が県内における陸上交通の安全に関し講ずべき施策をとりまとめたものです。

令和6(2024)年中における県内の交通事故は、

発生件数	3, 946件(前年対比 +138件)
うち重傷事故件数	532件(前年対比 +33件)
死者数	60人(前年対比 +1件)
負傷者数	4,683人(前年対比 +133件)
うち重傷者数	560人(前年対比 +19人)

であり、発生件数等すべてが昨年より増加しました。

また、10月及び11月の2回にわたり、交通死亡事故多発警報の発令に至るなど、交通情勢は厳しい状況であります。

このような状況の中、交通事故死者数を減少させ、県民を交通事故の脅威から守るためには、行政と県民がより一層密接に連携しながら、交通安全対策全般にわたる総合的かつ効果的な各種施策を推進していく必要があります。

そのため、栃木県交通安全対策会議では、交通事故死者数を減少させ、安全かつ円滑、そして快適な交通社会の進展と、全ての県民の願いである交通事故のない“安全で安心な栃木県”の実現を目指し、この計画を強力で推進するものです。

目 次

第1章 道路交通の安全

1	道路交通環境の整備	1
(1)	生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備	1
(2)	幹線道路における交通安全対策の推進	3
(3)	交通安全施設等の整備事業の推進	7
(4)	高齢者等の移動手段の確保・充実	9
(5)	歩行空間のユニバーサルデザイン化	9
(6)	無電柱化の推進	10
(7)	効果的な交通規制の推進	10
(8)	自転車利用環境の総合的整備	11
(9)	ITS の活用	12
(10)	交通需要マネジメントの推進	13
(11)	災害に備えた道路交通環境の整備	14
(12)	総合的な駐車対策の推進	15
(13)	道路交通情報の充実	17
(14)	交通安全に寄与する道路交通環境の整備	18
2	交通安全意識の高揚	19
(1)	段階的かつ体系的な交通安全教育の推進	19
(2)	効果的な交通安全教育の推進	25
(3)	交通安全に関する普及啓発活動の推進	25
(4)	交通の安全に関する民間団体等の主体的活動の推進	31
(5)	地域における交通安全活動への参加・協働の推進	32
3	安全運転の確保	32
(1)	運転者教育等の充実	32
(2)	運転免許業務の改善	35
(3)	安全運転管理の推進	35
(4)	事業用自動車の安全プラン等に基づく安全対策の推進	36
(5)	交通労働災害の防止等	38
(6)	道路交通に関連する情報の充実	39
4	車両の安全性の確保	41
(1)	自動運転車の安全対策・活用の推進	41
(2)	自動車の検査及び点検整備の充実	41
(3)	自転車の安全性の確保	42
5	道路交通秩序の維持	43
(1)	交通の指導取締りの強化等	43
(2)	交通事故事件等に係る適正かつ緻密な捜査の一層の推進	44
(3)	暴走族等対策の推進	45
6	救助・救急活動の充実	47
(1)	救助・救急体制の整備	47
(2)	救急医療体制の整備	50
(3)	救急関係機関の協力関係の確保等	51
7	被害者支援の充実と推進	52
(1)	自動車損害賠償保障制度に関する広報啓発等	52
(2)	損害賠償の請求についての援助等	52
(3)	交通事故被害者支援の充実強化	53
8	研究開発・調査研究の周知及び活用等	54
(1)	道路交通の安全に関する研究開発の周知及び活用	54
(2)	道路交通事故原因の総合的な調査研究の充実強化	55

第2章 鉄道交通の安全

1	鉄道交通環境の整備	56
(1)	鉄道施設等の安全性の向上	56
(2)	運転保安設備等の整備	57
2	鉄道交通の安全に関する知識の普及	58
3	鉄道の安全な運行の確保	59
(1)	保安監査の実施	59
(2)	運転士の資質の保持	59
(3)	安全上のトラブル情報の共有・活用	59
(4)	気象情報等の充実	60
(5)	大規模な事故等が発生した場合の適切な対応	61
(6)	運輸安全マネジメント評価の実施	62
(7)	計画運休への取組	62
4	鉄道車両の安全性の確保	63
5	救助・救急活動の充実	63
6	被害者支援の推進	64

第3章 踏切道における交通の安全

1	踏切道の立体交差化、構造の改良及び歩行者等立体横断施設の整備の促進	65
2	踏切保安設備の整備及び交通規制の実施	65
3	踏切道の統廃合の促進	66
4	その他踏切道の交通の安全と円滑化を図るための措置	66

第1章 道路交通の安全

1 道路交通環境の整備

(1) 生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備

ア 生活道路における交通安全対策の推進	道路管理者・交通規制課 交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 科学的データや、地域の顕在化したニーズ等に基づき抽出した交通事故の多いエリアにおいて、国、県、市町、警察等の関係機関及び地域住民等が連携し、徹底した通過交通の排除や車両速度の抑制等のゾーン対策に取り組み、子どもや高齢者等が安心して通行できる道路空間の確保を図る。 警察においては、交通規制、交通管制及び交通指導取締りの融合に配慮した施策を推進する。生活道路については、歩行者・自転車利用者の安全な通行を確保するため、「ゾーン30」等（ゾーン30プラス）を整備するなどの低速度規制を実施する。また、通行禁止等の交通規制を実施するほか、高輝度標識等の見やすく分かりやすい道路標識・道路標示の整備や信号灯器のLED化、路側帯の設置・拡幅、ゾーン対策等の安全対策や、外周幹線道路を中心として、信号機の改良、光ビーコン・交通情報板等によるリアルタイムの交通情報提供等の交通円滑化対策を実施する。 また、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下「バリアフリー法」という。）にいう生活関連経路を構成する道路を中心として、音響により青信号になった状況を知らせる音響式信号機、歩行者等と自動車が行き交う時間を分離して交通事故を防止する歩車分離式信号等の整備を推進する。 さらに、道路幅員が狭くガードレール等もない生活道路でも活用できる可搬式速度違反自動取締装置による適切な取締りを推進する。 道路管理者においては、歩道の整備等により、安心して移動できる歩行空間ネットワークを整備する。また、公安委員会により実施される交通規制及び交通管制との連携を強化し、ランプやクランク等車両速度を抑制する道路構造等により、歩行者や自転車の通行を優先するゾーンを形成する「ゾーン30プラス」の整備、外周幹線道路の交通を円滑化するための交差点改良やエリア進入部における狭さくの設定等によるエリア内への通過車両の抑制対策を実施する。 また、道路標識の高輝度化・必要に応じた大型化・可変性・自発光化、標示板の共架、設置場所の統合・改善、道路標示の高輝度化等（以下「道路標識の高輝度化等」という。）を行い、見やすく分かりやすい道路標識・道路標示の整備を推進する。 さらに、ビッグデータの活用により潜在的な危険箇所の解消を進めるほか、交通事故の多いエリアでは、国、県、市町、地域住民等が連携して効果的・効率的に対策を実施する。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ゾーン対策を積極的に推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・あんしん歩行エリア ・生活道路対策エリア ・くらしのみちゾーン ・スクールゾーン ・キッズゾーン ・ゾーン30 ・ゾーン30プラス 歩道設置等による交通事故抑止対策を推進する。 	
イ 通学路等における交通安全の確保	道路管理者・交通規制課 教育委員会・子ども政策課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 通学路や未就学児を中心に子どもが日常的に集団で移動する経路における交通安全を確保するため「通学路交通安全プログラム」等に基づく定期的な合同点検の実施や対策の改善・充実等の継続的な取組を支援するとともに、令和3年千葉県八街市で発生した事故を受けての通学路の合同点検及び未就学児を中心に子どもが日常的に集団で移動する経路の緊急安全点検等の結果を踏まえ、道路交通実態に応じ、学校、教育委員会、警察、保育所等の対象施設、その所管機関、道路管理者等の関係機関が連携し、ハード・ソフトの両面から必要な対策を推進 	

する。

- 2 高等学校、中学校に通う生徒、小学校、幼稚園、保育所や児童館等に通う児童・幼児の通行の安全を確保するため、通学路等の歩道整備等を積極的に推進するとともに、ハンプ・狭さく等の設置、路肩のカラー舗装、防護柵・ライジングボラード等の設置、自転車道・自転車専用通行帯・自転車の通行位置を示した道路等の整備、押ボタン式信号機・歩行者用灯器等の整備、立体横断施設の整備、横断歩道等の拡充等の対策を推進する。

【事業計画の概要】

〔主な事業箇所〕

路線名	工区名	整備状況
国道4号	雀の宮（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進
国道4号	上横田（宇都宮市）	調査設計
国道4号	栗宮（小山市）	用地買収及び工事の推進
県道石末真岡線	飯貝（真岡市）	用地買収及び工事の推進
県道黒磯黒羽線	中野内（大田原市）	用地買収及び工事の推進
県道佐久山喜連川線	下河戸（さくら市）	用地買収
県道鹿沼日光線	西小前（鹿沼市）	用地調査
都計毛野西新井線	西新井町（足利市）	用地買収及び工事の推進
都計大通り	駒生町（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進
都計前橋水戸線	高砂町（佐野市）	用地買収及び工事の推進
都計中田原美原線	城山（大田原市）	用地買収及び工事の推進
都計3・5・2山手通り	屋敷（那須烏山市）	用地買収
都計中郷八木岡線	荒町（真岡市）	用地買収
都計祖母井中央通り	祖母井（芳賀町）	用地買収及び工事の推進

ウ 高齢者、障害者等の安全に資する歩行空間等の整備	道路管理者・交通規制課・交通指導課 保健福祉課・高齢対策課・障害福祉課
---------------------------	--

【事業計画の方針】

- 1 駅、公共施設、福祉施設、病院等の周辺を中心に平坦性が確保された幅の広い歩道等を積極的に整備するほか、歩道の段差・傾斜・勾配の改善、音響式信号機や歩車分離式信号等のバリアフリー対応型信号機、視覚障害者誘導用ブロック及びエスコートゾーン、昇降装置付立体横断施設、歩行者用休憩施設、自転車駐車場、障害者等の駐車スペースを有する自動車駐車場等の整備を推進する。あわせて、高齢者、障害者等の通行の安全と円滑を図るとともに、高齢運転者の増加に対応するため、信号灯器のLED化、道路標識の高輝度化等を推進する。
- 2 Bluetoothを活用し、スマートフォン等に対して歩行者用信号情報を送信するとともに、スマートフォン等の操作により青信号時間の延長を可能とする歩行者等支援情報通信システム（高度化PICS）の整備を推進し、高齢者、障害者等の安全な移動を支援する。
- 3 駅前等の交通結節点において、エレベーター等の設置、スロープ化や建築物との直結化が図られた立体横断施設、交通広場等の整備を推進し、歩きたくなるような安全で快適な歩行空間を積極的に確保する。
- 4 バリアフリー法に基づく重点整備地区に定められた駅の周辺地区等においては、公共交通機関等のバリアフリー化と連携しつつ、誰もが歩きやすい幅の広い歩道、道路横断時の安全を確保する機能を付加したバリアフリー対応型信号機等の整備を連続的・面的に整備しネットワーク化を図る。
- 5 視覚障害者誘導用ブロック、歩行者用の案内標識、バリアフリーマップ等により、公共施設の位置や施設までの経路等を適切に案内する。
- 6 横断歩道、バス停留所付近の違法駐車等の悪質性、危険性、迷惑性の高い駐車違反に対する取締りを強化する。また、高齢者、障害者等の円滑な移動を阻害する要因となっている歩道や視覚障害者誘導用ブロック上等の自動二輪車等の違法駐車についても、放置自転車等の撤去を行う市町と連携を図りつつ積極的な取締りを推進する。

【事業計画の概要】

1 あんしん歩行エリア対象地区（9地区）

- ・宇都宮駅西中心地区 ・宇都宮駅東地区 ・足利市河北・河南省街地地区
- ・栃木市役所周辺地区 ・JR佐野駅周辺地区 ・鹿沼市市街地地区
- ・日光市市街地地区 ・真岡市市街地地区 ・大田原市市街地地区

[事業内容]

- ・歩行者、車両用灯器改良（LED灯器）
- ・大型標識、高輝度道路標識、高輝度道路標示
- ・自転車歩行者道における通行位置の明示
- ・交差点の改良
- ・自転車専用通行帯の整備

2 おもいやり駐車スペースつぎつぎ事業

多くの方が利用する公共的施設に設置されている障害者等用駐車スペースの適正利用や歩行困難者の利便性の向上を図るため、「おもいやり駐車スペースつぎつぎ事業」を実施する。

- (1) おもいやり駐車スペースを利用できる方を明らかにするために利用証を交付する。
- (2) 協力施設における障害者等用駐車スペースをおもいやり駐車スペースとして表示する。
- (3) 障害者等利用者への周知及び県民への普及啓発を実施する。
- (4) 43府県間（令和6（2024）年11月1日現在）における、利用証の相互利用の実施

(2) 幹線道路における交通安全対策の推進

ア 事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）の推進	道路管理者																		
<p>【事業計画の方針】</p> <p>交通安全に資する道路整備事業の実施に当たって、効果を科学的に検証しつつ、マネジメントサイクルを適用することにより、効率的・効果的な実施に努め、次の手順により「事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）」を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国道における死傷事故は特定の区間に集中していることを踏まえ、死傷事故率の高い区間や地域の交通安全の実情を反映した区間等、事故の危険性が高い特定の区間を第三者の意見を参考にしながら選定する。 2 地域住民に対し、事故危険区間であることの注意喚起を行う。また、事故データにより、卓越した事故類型や支配的な事故要因等を明らかにした上で、今後蓄積していく対策効果データを活用しつつ、事故要因に即した効果の高い対策を立案・実施する。 3 対策完了後は、対策の効果を分析・評価し、必要に応じて追加対策を行うなど、評価結果を次の新たな対策の検討に活用する。 <p>【事業計画の概要】</p> <p>[主な事業区間]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">路 線 名</th> <th style="width: 30%;">工 区 名</th> <th style="width: 40%;">整 備 状 況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国道4号</td> <td>雀の宮（宇都宮市）</td> <td>用地買収及び工事の推進</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>上横田（宇都宮市）</td> <td>調査設計</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>栗宮（小山市）</td> <td>用地買収及び工事の推進</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>寺子～豊原（那須町）</td> <td>道路設計及び工事の推進</td> </tr> <tr> <td>都計大通り</td> <td>駒生町（宇都宮市）</td> <td>用地買収及び工事の推進</td> </tr> </tbody> </table>		路 線 名	工 区 名	整 備 状 況	国道4号	雀の宮（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進	国道4号	上横田（宇都宮市）	調査設計	国道4号	栗宮（小山市）	用地買収及び工事の推進	国道4号	寺子～豊原（那須町）	道路設計及び工事の推進	都計大通り	駒生町（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進
路 線 名	工 区 名	整 備 状 況																	
国道4号	雀の宮（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進																	
国道4号	上横田（宇都宮市）	調査設計																	
国道4号	栗宮（小山市）	用地買収及び工事の推進																	
国道4号	寺子～豊原（那須町）	道路設計及び工事の推進																	
都計大通り	駒生町（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進																	
イ 事故危険箇所対策の推進	道路管理者・交通規制課																		

【事業計画の方針】

- 1 事故発生の多い幹線道路の区間や、ビッグデータの活用により潜在的な危険区間等を事故危険箇所として指定し、警察と道路管理者が連携して集中的な事故抑止対策を実施する。
- 2 事故危険箇所においては、信号機の新設・改良、歩車分離式信号の運用、道路標識の高輝度化等、歩道等の整備、隅切り等の交差点改良、視距の改良、付加車線等の整備、バス路線等における停車帯の設置及び防護柵、区画線等の整備、道路照明・視線誘導標等の設置等の対策を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 信号機、道路標識及び道路標示の整備
 - (1) 信号機は、交通事故の発生割合の高い区間・地点を重点に、集中制御化、系統化等へと高度化して、機能を向上させる。また、信号機を新設する場合には、「信号機設置の指針」に準拠し、適切な設置に努める。
 - (2) 道路標識の大型化・高輝度化の導入及び道路標示の高輝度化等を推進する。
- 2 効果的な交通規制の実施

一時停止規制、速度規制、追越しのための右側部分はみ出し通行禁止規制等の交通規制は、「見やすく、分かりやすく、守られやすい交通規制」とするために、道路標識・標示を適正に設置するとともに、交通の状況に応じて必要な見直しを行う。
- 3 効果的な交通安全施設等の整備
 - (1) 事故多発地点及びその周辺地域においては、交通の安全と円滑を図るため、道路照明の設置、交差点改良、歩道の整備等の事故削減対策を重点的に実施する。
 - (2) 夜間の交通事故を防止するため、関係機関と協力して、緊急性の高い箇所から道路標識・標示の高輝度化、道路照明・視線誘導標等の設置を積極的に推進する。
 - (3) 歩行者及び自転車に関連する事故の発生率が高い地区を「あんしん歩行エリア」に指定し、信号機や横断歩道の整備、速度規制や駐車禁止などの交通規制、歩道の整備や段差、勾配の解消等の対策を実施する。

〔事故対策〕（事故危険箇所）

路 先 名	工 区 名	整 備 状 況
県道栃木小山線	卒島（小山市）	用地買収及び工事の推進
県道下岡本上三川線	上郷南（上三川町）	用地買収及び工事の推進
都計大通り	駒生町（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進
都計赤見馬門線	高萩町（佐野市）	用地買収及び工事の推進

ウ 幹線道路における交通規制	交通規制課・東日本高速道路 高速道路交通警察隊
----------------	----------------------------

【事業計画の方針】

- 1 一般道路については、交通の安全と円滑化を図るため、道路の構造、交通安全施設等の整備状況、道路交通実態の状況等を勘案しつつ、速度規制及び追越しのための右側部分はみ出し通行禁止規制等について見直しを行い、その適正化を図る。
- 2 高速自動車国道等については、交通事故、天候不良等の交通障害が発生した場合における交通規制を迅速かつ的確に実施し、二次事故の防止を図る。

【事業計画の概要】

- 1 一般道路

主要幹線道路を重点として交通規制の見直しを図る。

 - (1) 信号サイクル等の見直し
 - (2) 速度規制等の交通規制の見直し

2 高速自動車国道等 交通事故、異常気象等交通障害発生時における状況把握と迅速、的確な交通規制の実施																									
エ 重大事故の再発防止	道路管理者・交通規制課 交通指導課・高速道路交通警察隊																								
<p>【事業計画の方針】 社会的影響の大きい重大事故が発生した際は、速やかに事故要因を調査し、同様の事故の再発防止を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 道路環境の調査整備 2 道路利用者からの意見聴取（標識BOX・広聴事案・地区協議会等から） 3 道路パトロールの推進 4 PDCAサイクルに基づく指導取締りの管理を効果的に行う。 																									
オ 適切に機能分担された道路網の整備	道路管理者・東日本高速道路 栃木県道路公社																								
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高規格幹線道路から生活道路に至るネットワークを体系的に整備するとともに、歩道や自転車道等の整備を積極的に推進し、歩行者、自転車、自動車等の異種交通の分離を図る。 2 死傷事故率が低く安全性の高い高規格幹線道路等の整備やインターチェンジの増設等による利用しやすい環境を整備し、より多くの交通量を分担させることによって道路ネットワーク全体の安全性を向上させる。 3 通過交通の排除と交通の効果的な分散により、円滑で安全な道路交通環境を確保するため、バイパス及び環状道路等の整備を推進する。 4 幹線道路で囲まれた居住地域内や歩行者等の通行の多い商業地域内等においては、通過交通をできる限り幹線道路に転換させるなど道路機能の分化により、生活環境を向上させるため、補助的な幹線道路、区画道路、歩行者専用道路等の系統的な整備を行う。 5 県民のニーズに応じた効率的な輸送体系を確立し、道路混雑の解消等円滑な交通流が確保された良好な交通環境を形成するため、道路交通、鉄道等複数の交通機関の連携を図るマルチモーダル施策を推進し、鉄道駅等の交通結節点へのアクセス道路の整備等を実施する。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スマートインターチェンジの増設、アクセス道路の整備等により、規格の高い道路を利用しやすい環境に整備する。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>路線名</th> <th>工区名</th> <th>整備状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東北縦貫自動車道弘前線</td> <td>(仮)大谷スマートインターチェンジ</td> <td>物件調査及び用地買収 工事の推進</td> </tr> <tr> <td>北関東自動車道</td> <td>(仮)下野スマートインターチェンジ</td> <td>工事の推進</td> </tr> <tr> <td>北関東自動車道</td> <td>(仮)足利スマートインターチェンジ</td> <td>用地・物件調査及び用地買収</td> </tr> <tr> <td>北関東自動車道</td> <td>(仮)壬生PAスマートインターチェンジ</td> <td>道路設計及び 用地・物件調査</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>西那須野道路</td> <td>道路設計、公共補償及び 工事の推進</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>矢板拡幅</td> <td>道路設計、用地買収及び 工事の推進</td> </tr> <tr> <td>国道4号</td> <td>矢板大田原バイパス</td> <td>道路設計、用地買収及び 工事の推進</td> </tr> </tbody> </table>		路線名	工区名	整備状況	東北縦貫自動車道弘前線	(仮)大谷スマートインターチェンジ	物件調査及び用地買収 工事の推進	北関東自動車道	(仮)下野スマートインターチェンジ	工事の推進	北関東自動車道	(仮)足利スマートインターチェンジ	用地・物件調査及び用地買収	北関東自動車道	(仮)壬生PAスマートインターチェンジ	道路設計及び 用地・物件調査	国道4号	西那須野道路	道路設計、公共補償及び 工事の推進	国道4号	矢板拡幅	道路設計、用地買収及び 工事の推進	国道4号	矢板大田原バイパス	道路設計、用地買収及び 工事の推進
路線名	工区名	整備状況																							
東北縦貫自動車道弘前線	(仮)大谷スマートインターチェンジ	物件調査及び用地買収 工事の推進																							
北関東自動車道	(仮)下野スマートインターチェンジ	工事の推進																							
北関東自動車道	(仮)足利スマートインターチェンジ	用地・物件調査及び用地買収																							
北関東自動車道	(仮)壬生PAスマートインターチェンジ	道路設計及び 用地・物件調査																							
国道4号	西那須野道路	道路設計、公共補償及び 工事の推進																							
国道4号	矢板拡幅	道路設計、用地買収及び 工事の推進																							
国道4号	矢板大田原バイパス	道路設計、用地買収及び 工事の推進																							

都計大通り	駒生町 (宇都宮市)	用地買収及び工事の推進
都計おもちゃのまち下古山線	若草町、おもちゃのまち (壬生町)	用地買収及び工事の推進
県道羽生田上蒲生線	上古山 (下野市)	工事の推進

2 高規格道路等の整備を推進し、より多くの交通量を分担させることによって道路ネットワーク全体の安全性を向上させる。

路線名	工区名	整備状況
国道408号	宇都宮高根沢バイパス	工事の推進
国道408号	真岡南バイパス	工事の推進

3 通過交通の排除と交通の効果的な分散及び交通容量の確保等により、都市部における道路の著しい混雑、交通事故の多発等の防止を図るため、バイパス及び環状道路等の整備を推進する。

路線名	工区名	整備状況
県道藤原宇都宮線	上田原北 (宇都宮市)	用地買収及び工事の推進
県道小山環状線	栗宮アンダー (小山市)	道路設計及び用地買収
県道大田原氏家線	親園佐久山バイパス (大田原市)	用地買収及び工事の推進
都計前橋水戸線	八栲町 (足利市)	用地買収

〔主な交差点改良〕

路線名	工区名	整備状況
県道宇都宮鹿沼線	飯岡東 (鹿沼市)	用地買収
国道121号	上石川 (鹿沼市)	用地買収

カ 高速自動車国道等における事故防止対策の推進	東日本高速道路・栃木県道路公社 交通規制課・高速道路交通警察隊
-------------------------	------------------------------------

【事業計画の方針】

- 事故多発区間のうち緊急に対策を実施すべき箇所について、雨天、夜間等の事故要因の詳細な分析を行う。これに基づき中央分離帯強化型防護柵、自発光式視線誘導標、高機能舗装、高視認性区画線の整備等を重点的に実施する。
- 逆走及び歩行者、自転車等の立入り事案による事故防止のため、標識や路面標示等による対策の拡充に加え、錯視効果を応用した路面標示等の対策を実施する。
- 渋滞区間における追突事故防止を図るため、臨時情報板を含む情報板の効果的な活用を推進するほか、後尾警戒車等により渋滞最後尾付近の警戒を行う。
- 事故発生後の救助・救急活動を支援する緊急開口部の整備等も併せて実施するとともに、高速自動車国道等におけるヘリコプターによる救助・救急活動を支援する。
- 過労運転やイライラ運転を防止し、安全で快適な自動車走行に資するより良い走行環境の確保を図るため、本線拡幅やインターチェンジの改良、事故や故障による停車車両の早期撤去等による渋滞対策、休憩施設の混雑解消等を推進する。
- 道路利用者の多様なニーズに応え、道路利用者へ適切な道路交通情報等を提供する道路交通情報通信システム (VICS) 及びETC2.0等の整備・拡充を図る。また、渋滞の解消等を図るため、情報通信技術を活用して即時に道路交通情報の提供を行う利用者サービスの向上等を推進する。

キ 道路の改築等による交通事故対策の推進	道路管理者
----------------------	-------

【事業計画の方針】

- 歩道等を設置するための既存道路の拡幅、幹線道路の整備と併せた生活道路におけるハンブや狭さくの設置等によるエリア内への通過車両の抑制対策、自転車道や自転車専用通行帯、自転車の通行位置を示した道路の整備等の道路交通の安全に寄与する道路の改築事業を推進する。
- 交差点及びその付近における交通事故の防止と交通渋滞の解消を図るため、交差点のコンパクト化、立体交差化等を推進する。また、進入速度の低下等による交通事故の防止や被害の軽

- 減、信号機が不要になることによる待ち時間の減少等の効果が見込まれる環状交差点について、周辺の土地利用状況等を勘案し、適切な箇所への導入を推進する。
- 3 道路の機能と沿道の土地利用を含めた道路の利用実態との調和を図ることが交通の安全の確保に資することから、交通流の実態を踏まえつつ、沿道からのアクセスを考慮した副道等の整備、路上駐停車対策等の推進を図る。
 - 4 交通混雑が著しい都市部、鉄道駅周辺等において、人と車の交通を体系的に分離するとともに、歩行空間の拡大を図るため、地区周辺の幹線道路、交通広場等の総合的な整備を図る。
 - 5 歴史的街並みや史跡等卓越した歴史的環境の残る地区において、地区内の交通と観光交通、通過交通の適切な分離を図る。

【事業計画の概要】

- 1 歩道の整備、バイパスの整備と併せた道路空間の再配分、自転車道の設置等の道路交通の安全に寄与する道路の改築事業を推進する

路線名	工区名	整備状況
県道結城石橋線	多功（上三川町）	用地買収及び工事の推進
都計大通り	駒生町（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進

ク 交通安全施設等の高度化 道路管理者・交通規制課

【事業計画の方針】

- 1 交通実態に応じて、複数の信号機を面的・線的に連動させる集中制御化・プログラム多段系統化等の信号制御の改良を推進するとともに、疑似点灯防止による視認性の向上に資する信号灯器のLED化を推進する。
- 2 道路の構造、交通の状況等に応じた交通の安全を確保するために、道路標識の高輝度化等、高視認性区画線の整備等を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 管制エリア信号機を高度化更新する。
- 2 信号機の運用見直しを図る。

(3) 交通安全施設等の整備事業の推進

ア 交通安全施設等の戦略的維持管理 交通規制課

【事業計画の方針】

整備後長期間が経過した交通安全施設等の老朽化対策が課題となっていることから、平成25(2013)年に「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」において策定された「インフラ長寿命化基本計画」等に即して、中長期的な視点に立った老朽施設の更新、施設の長寿命化、ライフサイクルコストの削減等を推進する。また、持続可能な交通規制を維持するため、栃木県内の道路について交通実態を調査・分析し、当該道路における交通規制の実施及び交通安全施設等の設置に係る合意性を点検した上で、交通実態に即した交通規制の実施等を強力に推進し、交通安全施設等の維持管理を適切に行う。

【事業計画の概要】

- 1 老朽交通安全施設等の計画的な更新と維持管理
- 2 「信号機設置の指針」に準拠した信号機の設置
- 3 交通環境の変化等により効果が低下した交通安全施設の撤去
- 4 実態に適合した交通規制を実施するための不断の見直し
- 5 コスト合理化のための交通安全施設等のストック管理及び必要性が低下した交通規制その

ものの改廃

イ 歩行者・自転車対策及び生活道路対策の推進	道路管理者・交通規制課
------------------------	-------------

【事業計画の方針】

- 生活道路において人優先の考えの下、「ゾーン30」等の車両速度の抑制、通過交通の抑制・排除等の面的かつ総合的な交通事故対策を推進する。
- 少子高齢社会の進展を踏まえ、歩行空間のバリアフリー化及び通学路や未就学児を中心に子どもが日常的に集団で移動する経路における安全・安心な歩行空間の確保を図る。
- 自転車利用環境の整備、無電柱化の推進、安全上課題のある踏切の対策等による歩行者・自転車の安全な通行空間の確保を図る。

【事業計画の概要】

未就学児が日常的に集団で移動する経路の緊急安全点検等を踏まえた対策

〔主な事業箇所〕

路線名	工区名	整備状況
県道西那須野薄葉線	太夫塚（那須塩原市）	工事の推進
国道294号	八條（真岡市）	用地買収及び工事の推進
都計赤見馬門線ほか1路線	高萩町（佐野市）	用地買収及び工事の推進
都計毛野西新井線	西新井町（足利市）	用地買収及び工事の推進
都計家富町堀込線	中橋（足利市）	用地買収及び工事の推進

ウ 交通円滑化対策の推進	道路管理者・交通規制課 鉄道事業者
--------------	----------------------

【事業計画の方針】

交通安全に資するため、信号機の改良、交差点の立体化、開かずの踏切の解消等を推進するほか、バイパスの整備等により、交通容量の拡大を図り、交通の円滑化を推進する。

【事業計画の概要】

円滑化対策事業

交通の円滑化を図ることが必要として指定されている円滑化対策地区について、エリア内における信号機の新設や制御機能の高度化等を推進するとともに、交差点改良や道路拡幅などにも取り組んでいく。

エ ITSの推進による安全で快適な道路交通環境の実現	道路管理者・交通規制課
----------------------------	-------------

【事業計画の方針】

- 交通情報の収集・分析・提供や交通状況に即応した信号制御その他道路における交通の規制を広域的かつ総合的に行うため、交通管制エリアの拡大を始め、交通管制システムの充実・改良を図る。
- 複数の信号機を面的・線的に連動させる集中制御化・プログラム多段系統化等の信号制御の改良を図るほか、最先端の情報通信技術等を用いて、光ビーコンの整備、交通管制センターの改良等により新交通管理システム（UTMS）を推進する。
- 情報収集・提供環境の拡充等により、道路交通情報提供の充実等を推進し、安全で快適な道路環境の実現を図る。

【事業計画の概要】

- 管制信号機を高度化更新する。

2 管制エリア信号機の改良見直しを推進する。	
オ 道路交通環境整備への住民参加の促進	道路管理者・交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 地域住民や道路利用者の主体的な参加の下に交通安全施設等の点検を行う交通安全総点検を積極的に推進する。</p> <p>2 「標識BOX」、「信号機BOX」等を活用して、道路利用者等が日常から抱えている意見を道路交通環境の整備に反映する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 交通安全総点検の実施 交通の安全と円滑を図るため、随時、交通安全総点検を実施する。 〔主な点検内容〕</p> <p>① バリアフリー点検 ② 歩行空間の障害物の点検 ③ 事故多発地点の点検 ④ 路上施設などの問題 ⑤ 道路利用者、住民のモラルの問題等 ⑥ 「あんしん歩行エリア」の点検</p> <p>2 交通規制の実施にあたっては、地域住民や道路利用者が「標識BOX」、「信号機BOX」及び「道の相談室」を通じて意見した内容を反映させる。</p>	
カ 連絡会議等の活用	道路管理者・交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>警察、道路管理者、学識経験者等による連絡会議等を通じて施策の企画、評価、進行管理等に関して協議を行い、的確かつ着実に安全な道路交通環境の実現を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>「道路行政マネジメントを実践する栃木県会議」等での意見を反映した交通事故対策の実施</p>	
(4) 高齢者等の移動手段の確保・充実	
高齢者等の移動手段の確保・充実	道路管理者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>高齢者を始めとする地域住民の移動手段の確保に向け、地域公共交通のマスタープランとなる「栃木県地域公共交通計画（令和6年3月策定）」に基づき、地域の輸送資源の総動員による持続可能な移動手段の確保・充実を図る取組を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>国、市町、交通事業者との連携協力の下、地域の実情や社会情勢の変化に対応したバス網の再構築や運行形態の変更などによる公共交通の維持確保、公共交通のバリアフリー化などによる公共交通の利便性向上を推進する。</p>	
(5) 歩行空間のユニバーサルデザイン化	
歩行空間のユニバーサルデザイン化	道路管理者・保健福祉課 高齢対策課・障害福祉課

【事業計画の方針】

高齢者や障害者等を含めて全ての人が安全に、安心して参加し活動できる社会を実現するため、駅、公共施設、福祉施設、病院等を結ぶ道路において、幅の広い歩道の整備や歩道の段差・傾斜・勾配の改善、無電柱化、視覚障害者誘導用ブロックの整備等による歩行空間の連続的・面的なユニバーサルデザイン化を積極的に推進する。また、バリアフリー化をはじめとする安全・安心な歩行空間を整備する。

(6) 無電柱化の推進

無電柱化の推進	道路管理者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 安全で快適な通行空間の確保等の観点から、「無電柱化の推進に関する法律」に基づき、幅員が著しく狭い歩道等の新設電柱の占用禁止や既設電柱の占用制限等を盛り込んだ、新たな無電柱化推進計画を策定して事業を推進する。</p> <p>2 地上機器の小型化による歩行者の安全性確保等の取組を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>電線類の地中化は昭和61(1986)年度から40年にわたり事業を進めており、令和6(2024)年度末までに県管理道路において約91kmの整備を実施した。また、令和4(2022)年度を初年度とした5か年計画である新たな「栃木県無電柱化推進計画」に基づき、引き続き無電柱化事業を行う。</p> <p>[主な事業箇所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道4号(下野市薬師寺～下石橋) ・国道4号(小山市喜沢) ・国道119号(日光市下鉢石町～上鉢石町) ・国道293号(鹿沼市上田町) ・国道293号(足利市西砂原後町) ・都計大通り(宇都宮市駒生町) ・都計平町東町線(日光市下今市) ・都計中田原美原線(大田原市城山) ・県道栃木佐野線(栃木市倭町) ・県道那須黒羽茂木線(茂木町茂木) ・国道4号(宇都宮市平出工業団地～下岡本町) ・国道4号(宇都宮市西原町～築瀬町) ・国道121号(鹿沼市天神町) ・国道293号(足利市堀込町) ・国道352号(壬生町大師町) ・都計大通り(宇都宮市桜) ・都計前橋水戸線(佐野市高砂町) ・都計山手通り(那須烏山市屋敷) ・県道烏山停車場線(那須烏山市南) ・県道小山結城線(小山市城東) 	

(7) 効果的な交通規制の推進

効果的な交通規制の推進	交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 地域の交通実態等を踏まえ、交通規制や交通管制の内容について常に点検・見直しを図る。また、交通事情の変化を的確に把握してソフト・ハード両面での総合的な対策を実施することにより、安全で円滑な交通流の維持を図る。</p> <p>2 速度規制については、最高速度規制が交通実態に合った合理的なものとなっているかどうかの観点から、点検・見直しを進めることに加え、一般道路においては、実勢速度、交通事故発生状況等を勘案しつつ、規制速度の引上げ、規制理由の周知措置等を計画的に推進する。また、生活道路においては、速度抑制対策を積極的に推進する。</p> <p>3 駐車規制については、必要やむを得ない駐車需要への対応が十分でない場所を中心に、地域住民等の意見要望を十分に踏まえた上で、道路環境、交通量、駐車需要等に即応したきめ細かな駐車規制を推進する。</p> <p>4 信号制御については、歩行者・自転車の視点で、信号をより守りやすくするために、横断実態等を踏まえ、歩行者の待ち時間の長い押しボタン式信号の改善を行うなど、信号サイクルの</p>	

調整等の運用の改善を推進する。

- 5 公安委員会が行う交通規制情報の質の向上やデータベース化を推進し、効果的な交通規制を推進する環境の整備を行う。

【事業計画の概要】

交通実態の変化等に即したより合理的な交通規制を推進する。

- ・ 駐停車禁止、指定方向外進行禁止、進行方向別通行区分の見直し
- ・ 規制速度と実勢速度との乖離が一定以上生じている一般道路の最高速度見直し
- ・ 歩行者の横断実態等を踏まえた信号サイクルの調整
- ・ 環状交差点として交通規制を実施すべき箇所適切な選定

(8) 自転車利用環境の総合的整備

ア 安全で快適な自転車利用環境の整備	道路管理者・交通規制課・交通企画課 くらし安全安心課・市町
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 栃木県自転車活用推進計画に掲げる「誰もが安全で快適に通行できる道づくり」を推進するため、自転車ネットワーク計画に基づき、自転車通行空間の整備を計画的に行う。</p> <p>2 また、自転車通行の安全性を向上させるため、自転車専用通行帯の設置区間や自転車と自動車を混在させる区間では、周辺の交通実態等を踏まえ、必要に応じて、駐車禁止又は駐停車禁止の規制を実施する。</p> <p>3 各地域において道路管理者や警察が自転車ネットワークの作成や道路空間の整備、通行ルールの徹底を進められるよう「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の周知を図り、さらに、自転車を共同で利用するシェアサイクルなどの自転車利用促進策や、ルール・マナーの啓発活動などのソフト施策を積極的に推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>自転車通行環境の整備</p> <p>「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」や道路構造令を基に、県内の自転車通行環境を整備していく。</p> <p>1 車道上における対策</p> <p>自転車道の設置、自転車専用通行帯の設置、車道混在時における路面表示等の整備、不法占用物件の撤去指導又は除去の強化</p> <p>2 歩道上における対策</p> <p>徐行を促す看板や路面表示の設置</p>	
イ 自転車等の駐車対策の推進	道路管理者・交通規制課 くらし安全安心課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 自転車等の駐車対策については、自転車等駐車対策協議会の設置、総合計画の策定を促進するとともに、自転車等の駐車需要の多い地域及び今後駐車需要が著しく多くなることが予想される地域を中心に、利用のされ方に応じた路外・路上の自転車駐輪場等の整備を推進する。</p> <p>2 鉄道の駅周辺等における放置自転車等の問題の解決を図るため、市町、道路管理者、警察、鉄道事業者等が適切な協力関係を保持し、地域の状況に応じ、駅前広場及び道路に放置されている自転車等の整理・撤去等の推進を図る。</p> <p>3 バリアフリー法に基づき、市町が定める重点整備地区内における生活関連経路を構成する道路においては、高齢者、障害者等の移動の円滑化に資するため、関係機関・団体が連携した広報啓発活動等の違法駐車を防止する取組及び自転車駐輪場等の整備を重点的に推進する。</p>	

【事業計画の概要】

- 1 自転車駐輪場の設置を推進する。
- 2 違法な放置自転車等の撤去を定期的実施する。

(9) ITSの活用

ア 道路交通情報通信システムの整備	道路管理者・交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none">1 安全で円滑な道路交通を確保するため、リアルタイムの渋滞情報、所要時間、規制情報等の道路交通情報を提供するVICSの整備・拡充を推進するとともに、高精度な情報提供の充実及び対応車載機の普及を図る。2 詳細な道路交通情報の収集・提供のため、光ビーコン、ETC2.0等のインフラの整備を推進する。そのほか、インフラから提供される情報を補完するため、リアルタイムの自動車走行履歴（プローブ）情報等の広範な道路交通情報を集約・配信する。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none">1 的確な交通情報収集と提供 交通管制センターを中心とした情報収集機能の充実及び交通情報提供システム（AMIS）の整備拡充により、交通情報の的確な提供に努める。2 渋滞情報のほか、各種交通障害の原因等ドライバーのニーズに対応した交通情報を提供することにより、ドライバーの主体的判断による交通流の分散、誘導を図り、交通管理の効率化及び走行の快適性の確保に努める。3 交通渋滞の早期解消のため、一時的な交通規制を実施するとともに、交通情報板等を活用した迂回誘導を行う。	
イ 新交通管理システムの推進	交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>最先端の情報通信技術等を用いて交通管理の最適化を図るため、光ビーコンの機能を活用してUTMSの開発・整備を行うことによりITSを推進し、安全・円滑かつ快適で環境負荷の低い交通社会の実現を目指す。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>管制エリアの拡大を図り、高度な交通情報を提供するとともに交通流、交通量を総合的に管理し道路交通の円滑性を確保する。</p>	
ウ 交通事故防止のための運転支援システムの推進	道路管理者・栃木運輸支局 交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>運転者に信号交差点への到着時における信号灯色等に関する情報を事前に提供することで、ゆとりある運転を促す信号情報活用運転支援システム（TSPS）を初めとするUTMSの整備を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none">1 宇都宮環状道路を中心とした宇都宮市内主要幹線道路において、高度化光ビーコンの整備を計画的に推進する。2 自動運転の実現に向けた環境整備・実証実験等に関する情報の提供3 自動運転技術の開発及び普及促進	

エ ETC2.0の展開	道路管理者・東日本高速道路												
<p>【事業計画の方針】 事故多発地点、道路上の落下物等の注意喚起等に関する情報を提供することで安全運転を支援する。また、収集した速度データや利用経路・時間データなどのビッグデータを活用し、渋滞と事故を減らす効率的な料金体系など、道路を賢く使う取組を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 高速自動車国道等におけるETC及びVICS整備状況</p> <table border="1" data-bbox="328 607 1206 763"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>ETC</th> <th>VICS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東北自動車道</td> <td>13箇所</td> <td>5 箇所</td> </tr> <tr> <td>北関東自動車道</td> <td>7 箇所</td> <td>5 箇所</td> </tr> <tr> <td>日光宇都宮道路</td> <td>5 箇所</td> <td>0 箇所</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	ETC	VICS	東北自動車道	13箇所	5 箇所	北関東自動車道	7 箇所	5 箇所	日光宇都宮道路	5 箇所	0 箇所
区 分	ETC	VICS											
東北自動車道	13箇所	5 箇所											
北関東自動車道	7 箇所	5 箇所											
日光宇都宮道路	5 箇所	0 箇所											
オ 道路運送事業に係る高度情報化の推進	道路管理者・交通規制課												
<p>【事業計画の方針】 環境に配慮した安全で円滑な自動車の運行を実現するため、道路運送事業においてITS技術を活用し、公共交通機関の利用を促す公共車両優先システム（PTPS）の整備を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 公共交通機関としてのバスの円滑な運行を確保するため、公共車両優先システムの整備等に努める。</p>													

(10) 交通需要マネジメントの推進

ア 公共交通機関利用の促進	道路管理者・交通規制課
<p>【事業計画の方針】 地域における移動ニーズに対応するため、地域公共交通のマスタープランとなる「栃木県地域公共交通計画（令和6年3月策定）」に基づき、公共交通サービスの改善や利便性向上を推進し、公共交通機関の利用の促進を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公共交通ネットワーク整備の推進 環境問題や高齢社会に対応した交通体系の形成を目指し、公共交通ネットワークの確保・充実の支援や公共交通機関の利用促進を図る。 2 公共交通機関利用促進事業の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) バス利用の促進 バス専用、優先レーンの設置、バス停（上屋・ベンチ・併設自転車駐輪場）の整備、バス感知式信号機等によるバス利用促進を図る。 (2) 公共交通機関による円滑な道路交通の確保 鉄道・バス事業者による運行頻度・運行時間の見直し、乗り継ぎの改善等によるシームレスな公共交通の実現を図るとともに、自転車道、駅前広場等の整備を促進する。 (3) 公共交通利用促進事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校低学年向けに副読本を作成し、公共交通利用促進に向けた啓発を行う。 	

- ・ 過度なマイカー利用を控え、公共交通機関等による通勤手段へ転換する「エコ通勤」の推進を図る。
- ・ 市町のコミュニティバスがインターネットの経路検索サービスに対応するよう、バス運行情報の見える化の取組を支援する。
- ・ 乗降や乗り継ぎがスムーズに行えるよう、交通系ICカードなどのキャッシュレスの導入を支援する。
- ・ 公共交通の利用の手助けとなる公共交通利用ポータルサイト「とちぎの公共交通らくらく情報案内」の充実を図る。

(11) 災害に備えた道路交通環境の整備

ア 災害に備えた道路の整備	道路管理者
---------------	-------

【事業計画の方針】

- 1 地震、豪雨、豪雪等の災害が発生した場合においても安全で安心な生活を支える道路交通の確保を図る。
- 2 豪雨・豪雪時等においても、安全・安心で信頼性の高い道路ネットワークを確保するため、道路斜面等の防災対策や災害の恐れのある区間を回避・代替する道路の整備を推進する。
- 3 地震等の災害発生時に、避難場所となる等、防災機能を有する「道の駅」を地域の防災拠点として位置づけ、その強化を図る。

【事業計画の概要】

- ・ 減災ネットワーク道路の整備・保全
高速自動車国道や国道4号・50号と防災拠点となる県庁・市町役場、医療活動拠点等を連絡する県管理道路における現道拡幅、交差点改良、落石対策、橋梁補修等
- ・ 避難所周辺道路の整備・保全
中山間地域等において、当該道路が被災した際、孤立の恐れがある避難所と幹線道路とを結ぶ県管理道路における現道拡幅、交差点改良、落石対策、橋梁補修等

路線名	工区名	整備状況
県道藤原宇都宮線	今里（宇都宮市）	用地買収及び工事の推進
県道福原小川線	浄法寺（那珂川町）	工事の推進

[防災箇所]

路線名	工区名	整備状況
国道121号	五十里（日光市）	工事の推進
県道黒磯棚倉線	梓（那須町）	工事の推進
国道122号	砂畑（日光市）	工事の推進

イ 災害に強い交通安全施設等の整備	道路管理者・交通規制課
-------------------	-------------

【事業計画の方針】

- 1 地震、豪雨・豪雪等の災害が発生した場合においても安全で円滑な道路交通を確保するため、交通管制センター、交通監視カメラ、車両感知器、交通情報板等の交通安全施設の整備を推進する。
- 2 通行止め等の交通規制を迅速かつ効果的に実施するための道路災害の監視システムの開発・導入や交通規制資機材の整備を推進する。
- 3 災害発生時の停電による信号機の機能停止を防止する信号機電源付加装置の整備や老朽化した信号機、道路標識・道路標示等の計画的な更新を推進する。

<p>【事業計画の概要】</p> <p>1 災害発生時の市内中心部への車両進入抑制に向け交通管制エリアの整備を推進する。</p> <p>2 信号機能の常時適切な運用管理のため確実な保守点検を励行する。</p>	
ウ 災害発生時における交通管制	道路管理者・交通管制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 災害発生時は、被災地域への車両の流入抑制を行うとともに、被害状況を把握した上で、災害対策基本法の規定に基づく通行禁止等の必要な交通管制を迅速かつ的確に実施する。</p> <p>2 災害発生時における混乱を最小限に抑える観点から、交通量等が一定の条件を満たす場合において安全かつ円滑な道路交通を確保できる環状交差点の活用を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 道路管理者である国・県・市町と緊密に連携し、交通情報の収集及び適切な交通管制を実施して、被災地へ向かう交通路の確保に努める。</p> <p>2 収集した情報により、道路情報板や日本道路交通情報センターによる的確な広報を推進する。</p>	
エ 災害発生時における情報提供の充実	道路管理者・交通管制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 災害発生時において、道路の被災状況や道路交通状況を迅速かつ的確に収集・分析・提供し、復旧や緊急交通路、緊急輸送道路等の確保及び道路利用者等に対する道路交通情報の提供等に資するため、地震計、交通監視カメラ、車両感知器、道路交通情報提供装置、道路管理情報システム等の整備を推進するとともに、インターネット等を活用した道路・交通に関する災害情報等の提供を推進する。</p> <p>2 災害発生時には、警察や道路管理者、民間事業者が保有するプローブ情報から運行実績情報を生成し提供することで災害時における交通情報の提供を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 交通情報の提供 道路利用者に対して、把握した交通管制等の情報を、日本道路交通情報センター等を通じて提供する。</p> <p>2 県土整備部「県土防災センター」及び県危機管理課「危機管理センター」へ情報を提供する。</p>	

(12) 総合的な駐車対策の推進

ア きめ細かな駐車規制の推進	交通管制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>地域住民等の意見要望等を十分に踏まえつつ、駐車規制の点検・見直しを実施する。また、物流の必要性や自動二輪車の駐車需要等にも配慮し、地域の交通実態等に応じた規制の緩和を行うなど、きめ細かな駐車規制を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>安全・円滑の確保を前提とした上で、地域住民等の要望意見・道路交通環境等を踏まえながら、市街地を重点として駐（停）車禁止規制の見直しを図る。</p>	

イ 違法駐車対策の推進	交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 悪質性、危険性、迷惑性の高い違反に重点を指向して、地域の実態に応じた取締り活動ガイドラインによるメリハリを付けた取締りを推進する。また、道路交通環境等当該現場の状況を勘案した上で必要があると認められる場合は、取締り活動ガイドラインの見直し等適切に対応する。</p> <p>2 運転者の責任を追及できない放置車両について、当該車両の使用者に対する放置違反金納付命令及び繰り返し放置違反金納付命令を受けた使用者に対する使用制限命令の積極的な活用を図り、使用者責任を追及する。他方、交通事故の原因となった違反や常習的な違反等悪質な駐車違反については、運転者の責任追及を徹底する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 訪問催促を計画的に実施する。</p> <p>2 活動ガイドラインの見直しを図る。</p>	
ウ 駐車場等の整備	道路管理者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 駐車場整備に関する調査を推進し、自動車交通が混雑する地区等において、駐車場整備地区の指定を促進するとともに、当該地区において計画的、総合的な駐車対策を行うため、駐車場整備計画の策定を推進する。</p> <p>2 地域の駐車需要を踏まえた附置義務駐車施設の整備を促進するとともに、民間駐車場の整備を促進する。また、都市機能の維持・増進を図るべき地区及び交通結節点等重点的に駐車場の整備を図るべき地域において、公共駐車場の整備を積極的に推進する。</p> <p>3 郊外部からの過剰な自動車流入を抑止し、都市部での交通の混雑を回避するため、パークアンドライドの普及のための駐車場等の環境整備を推進する。</p> <p>4 高速道路の休憩施設における駐車スペース不足に対応するため、駐車スペースの拡充や短時間駐車マス・ダブル連結トラック駐車マス・駐車場予約システムを導入するとともに、「道の駅」を活用した休憩サービスの拡充等高速道路外の休憩施設等の活用を推進する。</p>	
エ 違法駐車を排除しようとする気運の醸成・高揚	くらし安全安心課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>違法駐車の排除及び自動車の保管場所の確保等に関し、県民への広報・啓発活動を行う。また、関係機関・団体との密接な連携を図り、住民の理解と協力を得ながら違法駐車を排除しようとする気運の醸成・高揚を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 各種広報媒体を活用した広報啓発を推進する。</p> <p>2 交通安全教育における広報啓発を推進する。</p>	
オ ハード・ソフト一体となった駐車対策の推進	道路管理者・交通規制課 交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>必要やむを得ない駐車需要への対応が十分でない場所を中心に、地域の駐車管理構想を見直</p>	

し、自治会、地元商店街等地域の意見要望を十分に踏まえた駐車規制の点検・改善、道路利用者や関係事業者等による自主的な取組の促進、路外駐車場や路上荷捌きスペース整備の推進、違法駐車取締り、積極的な広報・啓発活動等ハード・ソフト一体となった総合的な駐車対策を推進する。

(13) 道路交通情報の充実

ア 情報収集・提供体制の充実	道路管理者・交通規制課 関東総合通信局
<p>【事業計画の方針】 多様化する道路利用者のニーズに応じて道路利用者に対し必要な道路交通情報を提供することにより、安全かつ円滑な道路交通を確保するため、光ビーコン、交通監視カメラ、車両感知器、交通情報板、道路情報提供装置等の整備による情報収集・提供体制の充実を図る。また交通管制エリアの拡大等の交通管制システムの充実・高度化を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 交通情報の提供 交通情報は、円滑な交通流を確保するため、交通管制センターにおいて集約し、これらを日本道路交通情報センターを始めとする広報媒体を通じて道路利用者へ提供する。 (公財) 日本道路交通情報センター 050-3369-6666 (全国共通ダイヤル)</p> <p>2 イベントに伴う臨時の放送局の開設 臨時の放送局は、国又は地方公共団体等が開催する博覧会、スポーツ大会等のイベントを円滑に運営するために開設し、会場周辺の安全と円滑を図るため、放送を通じて交通情報をタイムリーに提供する。</p> <p>3 「コミュニティ放送」の普及促進 「コミュニティ放送」は、市町村の一部区域を対象に放送を行うFM放送で、カーラジオ等を通して、地域住民や観光客等へきめ細かな道路交通情報や駐車場情報をリアルタイムで提供できるため、円滑な交通の確保に寄与しており、今後も周波数事情が許す限りの普及を図る。</p>	
イ ITSを活用した道路交通情報の高度化	道路管理者・交通規制課 関東総合通信局
<p>【事業計画の方針】 ITSの一環として、運転者に渋滞状況等の道路交通情報を提供するVICSやETC2.0の整備・拡充を積極的に推進して情報提供の高度化を図り、交通の分散により交通渋滞を解消して、交通の安全と円滑化を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 光ビーコンの高度化更新を推進する。</p>	
ウ 分かりやすい道路交通環境の確保	道路管理者・交通規制課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 時間別・車種別等の交通規制の実効を図るための視認性・耐久性に優れた大型固定標識等の整備及び利用者のニーズに即した系統的で分かりやすい案内標識等の整備を推進する。</p> <p>2 主要な幹線道路の交差点及び交差点付近において、ルート番号等を用いた案内標識の設置の推進、案内標識の英語表記改善の推進等により、国際化の進展への対応に努める。</p>	

【事業計画の概要】

規制標識「一時停止」等の新設又は更新の際には、英語表記を併記した標識板を整備する。

(14) 交通安全に寄与する道路交通環境の整備

ア 道路の使用及び占用の適正化等	道路管理者・交通規制課 交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 道路の使用及び占用の適正化 工作物の設置、工事等のための道路の使用及び占用の許可に当たっては、道路の構造を保全し、安全かつ円滑な道路交通を確保するために適正な運用を行う。また、許可条件の履行、占用物件等の維持管理の適正化について指導する。</p> <p>2 不法占用物件の排除等 道路交通に支障を与える不法占用物件等については、実態把握、指導取締りによりその排除を行い、特に市街地について重点的にその是正を実施する。また、道路上から不法占用物件等を一扫するためには、沿道住民を始め道路利用者の自覚に待つところが大きいことから、不法占用等の防止を図るための啓発活動を沿道住民等に対して積極的に行い、「道路ふれあい月間」等を中心に道路の愛護思想の普及を図る。 道路工事調整等を効果的に行うため、図面を基礎としてデジタル地図を活用し、データ処理を行うコンピュータ・マッピング・システムの段階的な活用の拡大を図る。</p> <p>3 道路の掘り返しの規制等 道路の掘り返しを伴う占用工事については、無秩序な掘り返しと工事に伴う事故・渋滞を防止するため、施工時期や施工方法を調整する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 道路使用状況については、各警察署の交通課及び委託先の栃木県交通安全活動推進センター調査員にて履行状況の確認を実施する。</p> <p>2 「道路を守る月間」について関係機関が協力し実施する。</p> <p>3 工事に伴う渋滞解消対策として、行楽期や年末・年始における工事の自粛を働きかける。</p>	
イ 休憩施設等の整備の推進	道路管理者・市町
<p>【事業計画の方針】</p> <p>過労運転に伴う事故防止や近年の高齢運転者等の増加に対応して、「道の駅」等の休憩施設等の整備を推進する。</p>	
ウ こどもの遊び場等の確保	道路管理者・こども政策課 教育委員会・市町
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 繁華街、小住宅集合地域、交通頻繁地域等、こどもの遊び場等の環境に恵まれない地域又はこれに近接する地域において、主として幼児及び小学校低学年児童の安全な遊び場として児童館等を利用できるよう適切な運営確保を図る。</p> <p>2 公立の小学校、中学校及び高等学校の校庭及び体育施設、社会福祉施設の園庭等の開放の促進を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 安全な遊び場や居場所の確保・充実 児童館及び児童センターは、児童に健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにす</p>	

<p>ることを目的とする地域の児童健全育成の拠点施設であり、こどものための安全な遊び場として、適切な運営体制の確保や職員の資質向上を図る。</p> <p>2 放課後児童対策の充実 昼間に保護者が不在の小学生を対象に、生活や遊びの指導などを行う放課後児童クラブの設置や運営を支援し、放課後や週末等におけるこどもの安全・安心な居場所を確保する。</p>	
エ 道路法に基づく通行の禁止又は制限	道路管理者・交通規制課 交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、道路の破損、欠壊又は異常気象等により交通が危険であると認められる場合及び道路に関する工事のためやむを得ないと認められる場合には、道路法に基づき、迅速かつ的確に通行の禁止又は制限を行う。</p> <p>2 道路との関係において必要とされる車両の寸法、重量等の最高限度を超える車両の通行の禁止又は制限に対する違反を防止するため、指導取締りの推進を図る。</p>	
オ 地域に応じた安全の確保	道路管理者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 積雪寒冷特別地域においては、冬期の安全な道路交通を確保するため、冬期積雪・凍結路面対策として都道府県単位や地方ブロック単位にこだわらない広範囲で躊躇ない予防的・計画的な通行規制や集中的な除雪作業、チェーン規制の実施、凍結防止剤散布の実施、交差点等における消融雪施設等の整備、流雪溝、チェーン脱着場等の整備を推進する。</p> <p>2 大雪が予想される場合には道路利用者に対し、通行止め、立ち往生車両の有無、広域迂回や出控えの呼びかけなど、道路情報板への表示やSNS等様々な手段を活用して幅広く情報提供するとともに、滞留が発生した場合には、滞留者に対して、直接、定期的に、除雪作業や滞留排出の進捗、通行止めの解除見通等を情報提供する。</p> <p>3 安全な道路交通の確保に資するため、気象、路面状況等を収集し、道路利用者へ提供する道路情報提供装置等の整備を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 林道における交通安全対策の推進 林道のうち、特に生活道路的性格の強い林道、一般車の通行が多い林道、及び公道との連絡林道について、交通安全に必要な施設を整備する。</p> <p>2 農道における交通安全対策の推進 農道は農業用道路として利用されるほか、地域の生活道路としても利用されるので、交通安全施設の整備を図る。</p> <p>3 宇都宮国道事務所直轄国道における積雪寒冷特別地域において、大雪等の異常降雪時に立ち往生等の通行障害が発生するおそれがある場合、早い段階において通行止めを行い、集中的・効率的な除雪を実施する。</p> <p>〔対象区間〕 一般国道4号 那須塩原市鍋掛地先（鍋掛豊浦交差点）～福島県西郷村（大清水交差点）</p>	

2 交通安全意識の高揚

(1) 段階的かつ体系的な交通安全教育の推進

ア 幼児に対する交通安全教育の推進	教育委員会・くらし安全安心課 こども政策課・交通企画課・市町
-------------------	-----------------------------------

【事業計画の方針】

- 1 幼児に対する交通安全教育は、心身の発達段階や地域の実情に応じて、基本的な交通ルールを遵守し、交通マナーを実践する態度を習得させる。また、日常生活において安全に道路を通行するために必要な基本的な技能及び知識を習得させることを目標とする。
- 2 幼稚園、保育所及び認定こども園においては、家庭及び関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、日常の教育・保育活動のあらゆる場面を捉えて交通安全教育を計画的かつ継続的に行う。
- 3 紙芝居や視聴覚教材等を利用したり親子で実習したりするなど、分かりやすい指導に努める。また、指導資料の作成、教職員の指導力の向上及び教材・教具の整備を推進する。
- 4 関係機関・団体は、幼児の心身の発達や交通状況等の地域の実情を踏まえた幅広い教材・教具・情報の提供等を行うことにより、幼稚園、保育所及び認定こども園において行われる交通安全教育の支援を行う。
- 5 幼児の保護者が常に幼児の手本となって安全に道路を通行するなど、家庭において適切な指導ができるよう、保護者に対する交通安全講習会等の実施に努める。
- 6 交通ボランティアによる幼児に対する通園時の安全な行動の指導、保護者を対象とした交通安全講習会等の開催を促進する。

【事業計画の概要】

- 1 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における交通安全教育の推進
 - (1) 家庭及び関係機関・団体と連携・協力を図りながら、日常の教育・保育活動のあらゆる場面を捉えて、計画的かつ継続的に進める。
 - (2) 紙芝居や腹話術、視聴覚教材の利用や具体的な場面設定等分かりやすい指導を進める。
 - (3) 指導資料の作成、教職員の指導力の向上及び教材・教具の整備を推進する。
- 2 関係機関・団体は、教材・教具の提供を行うことにより、幼稚園・保育所及び認定こども園等への支援を行うとともに、家庭において適切な指導や交通安全についての積極的な話し合い等が行われるよう保護者に対する交通安全講習会の実施に努める。
- 3 幼児を交通事故から守るためには、幼児に対して正しい交通安全教育を行う必要があることから、年間を通してふれあい交通安全教育を進めていく中で、指導力の向上を図るとともに、指導資料を作成し教育指導の向上にあたる。

イ 小学生に対する交通安全教育の推進	教育委員会・文書学事課 くらし安全安心課・交通企画課・市町
ウ 中学生に対する交通安全教育の推進	
エ 高校生に対する交通安全教育の推進	

【事業計画の方針】

- 1 目標
 - (1) 小学生に対する交通安全教育は、心身の発達段階や地域の実情に応じて、歩行者及び自転車の利用者として必要な技能と知識を習得させる。また、道路及び交通の状況に応じて、安全に道路を通行するために、道路交通における危険を予測し、これを回避して安全に通行する意識及び能力を高めることを目標とする。
 - (2) 中学生に対する交通安全教育は、日常生活における交通安全に必要な事柄、特に、自転車で安全に道路を通行するために、必要な技能と知識を十分に習得させる。また、道路を通行する場合は、自己の安全ばかりでなく、思いやりをもって、他の人々の安全にも配慮できるようにすることを目標とする。
 - (3) 高校生に対する交通安全教育は、日常生活における交通安全に必要な事柄、特に、二輪車の運転者及び自転車の利用者として安全に道路を通行するために、必要な技能と知識を十分に習得させる。また、交通社会の一員として交通ルールを遵守し自他の生命を尊重するなど責任を持って行動することができるような健全な社会人を育成することを目標とする。
- 2 学校の役割
 - (1) 小学校においては、家庭及び関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じて、安全な歩行の仕方、自転車の安全な利用、乗り物の安全な利用、危険の予測と回避、交通ルールの意味及び必要性等

について重点的に交通安全教育を実施する。このため、自転車の安全な利用等も含め、安全な通学のための教材等を作成・配布するとともに、交通安全教室を一層推進するほか、教員等を対象とした心肺蘇生法の実技講習会等を実施する。

(2) 中学校においては、家庭及び関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、保健体育、道徳、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じて、安全な歩行の仕方、自転車の安全な利用、自動車等の特性、危険の予測と回避、標識等の意味、自転車事故における加害者の責任、応急手当等について重点的に交通安全教育を実施する。このため、自転車の安全な利用等も含め、安全な通学のための教材等を作成・配布するとともに、交通安全教室を一層推進するほか、教員等を対象とした心肺蘇生法の実技講習会等を実施する。

(3) 高等学校においては、家庭及び関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、保健体育、総合的な探究の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じて、自転車の安全な利用、二輪車・自動車の特性、危険の予測と回避、運転者の責任、応急手当等について更に理解を深める。また、生徒の多くが、近い将来、普通免許等を取得することが予想されることから、免許取得前の教育としての性格を重視した交通安全教育を行う。特に、二輪車・自動車の安全に関する指導については、生徒の実態や地域の実情に応じて、安全運転を推進する機関・団体やPTA等と連携しながら、通学等の理由により在学中に二輪車等を必要とする生徒がいることも考慮しつつ、安全運転に関する意識の高揚及び実技指導等を含む実践的な交通安全教育の充実を図る。このため、自転車の安全な利用等も含め、安全な通学のための教材等を作成・配布するとともに、交通安全教室を一層推進するほか、教員等を対象とした心肺蘇生法の実技講習会等を実施する。

3 関係機関・団体による支援等

(1) 関係機関・団体は、小学校において行われる交通安全教育の支援を行うとともに、児童に対する交通安全教育の推進を図る。また、児童の保護者が日常生活の中で模範的な行動をとり、歩行中、自転車乗用中等実際の交通の場面で、児童に対し、基本的な交通ルールや交通マナーを教えられるよう保護者を対象とした交通安全講習会等を開催する。さらに、交通ボランティアによる通学路における児童に対する安全な行動の指導、児童の保護者を対象とした交通安全講習会等の開催を促進する。

(2) 関係機関・団体は、中学校において行われる交通安全教育が円滑に実施できるよう指導者の派遣、情報の提供等の支援を行う。また、地域において、保護者対象の交通安全講習会や中学生に対する補完的な交通安全教育の推進を図る。

(3) 関係機関・団体は、高等学校において行われる交通安全教育が円滑に実施できるよう指導者の派遣、情報の提供等の支援を行う。また、地域において、高校生及び相当年齢者に対する交通安全教育の推進を図る。そのほか、小中学生等との交流を図るなどして高校生の果たしうる役割を考えさせるとともに、交通安全活動への積極的な参加を促す。

【事業計画の概要】

1 児童に対する交通安全教育の推進

(1) 家庭、関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、各教科、道徳、特別活動・総合的な学習の時間等、あらゆる学習活動を通じて次のことを重点的に指導する。

ア 歩行者としての心得

イ 自転車の安全な利用

ウ 自動車に乗車する場合の心得

エ 交通ルールの意味及び必要性等

オ 道路における危険を予測し回避する能力の育成

カ 交通事故の場合の措置

(2) 効果的なものにするため、教員対象の研修会を実施する。

ア 安全教育指導者研修会

イ 心肺蘇生法講習会

(3) 関係機関・団体は、小学校への支援を行うとともに、児童に対する補完的な交通安全教育を図る。

(4) 児童の保護者を対象とした講習会を実施する。

保護者が、日常生活で模範的な態度をとり、歩行中、自転車乗車中など実際の交通の場面

で、児童に対し基本的な交通ルールや交通マナーを教えられるよう、保護者対象の講習会を開催する。

※ 県内小学校数（令和7（2025）年5月1日現在）

公立 334校（義務教育学校（前期課程）6校及び分校1校を含む）
国立 1校
私立 1校
計 336校

2 中学生に対する交通安全教育の推進

(1) 家庭、関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、各教科、道徳、特別活動・総合的な学習の時間等、あらゆる教育活動を通じて、次のことを重点的に指導する。

- ア 歩行者としての心得
- イ 自転車の安全な利用
- ウ 道路標識等の意味
- エ 自動車の特性
- オ 危険の予測と回避
- カ 応急手当・交通事故の場合の措置

(2) 効果的なものにするため、教員対象の研修会を実施する。

- ア 安全教育指導者研修会
- イ 心肺蘇生法講習会

※ 県内中学校数（令和7（2025）年5月1日現在）

公立 152校
（県立中学校3校、義務教育学校（後期課程）6校及び分校2校を含む）
国立 1校
私立 7校
計 160校

※ 県内中等教育学校（前期課程）（令和7（2025）年5月1日現在） 私立 1校

3 高校生に対する交通安全教育の推進

(1) 家庭、関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、各教科、特別活動、総合的な探究の時間等、あらゆる教育活動を通じて、次のことを重点的に指導する。

- ア 自転車の安全な利用
- イ 二輪車・自転車の特性
- ウ 運転者としての責任
- エ 応急手当
- オ 二輪車安全運転に関する意識の高揚と実技指導を含めた交通安全教育

(2) 教員対象の研修会の実施

- ア 安全教育指導者研修会
- イ 心肺蘇生法講習会

(3) 高校生の事故防止のための対策

- ア 高校生による二輪車や四輪車の重大事故の発生を防止するため、積極的かつきめ細かい交通安全指導を実施する。
- イ 県内9地区に設置した高等学校交通問題地域連絡協議会の活動の充実を図り、家庭や地域社会への啓発を積極的に行い、地域ぐるみの交通安全教育を推進する。
- ウ 高校生に対する二輪車安全運転実技講習会を開催し、安全運転意識の高揚と実践的な行動の育成を図る。
- エ 高校生に対し運転適性検査を実施し、生徒の特性に応じた個別指導の強化を図る。

※ 県内高等学校数（令和7（2025）年5月1日現在）

公立 60校
私立 15校
計 75校

※ 県内中等教育学校（後期課程）（令和7（2025）年5月1日現在） 私立 1校

オ 成人に対する交通安全教育の推進	交通企画課・運転免許管理課 くらし安全安心課・文書学事課 教育委員会・市町
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人に対する交通安全教育は、自動車等の安全運転の確保の観点から、免許取得時及び免許取得後の運転者の教育を中心として行うほか、社会人、大学生等に対する交通安全教育の充実に努める。 2 運転免許取得時の教育は、自動車教習所における教習が中心となることから、教習水準の一層の向上に努める。 3 免許取得後の運転者教育は、運転者としての社会的責任の自覚、安全運転に必要な技能及び技術、特に危険予測・回避の能力の向上、交通事故被害者等の心情等交通事故の悲惨さに対する理解及び交通安全意識・交通マナーの向上を目標とする。 4 公安委員会が行う各種講習、自動車教習所、民間の交通安全教育施設等が受講者の特性に応じて行う運転者教育及び事業所の安全運転管理の一環として安全運転管理者、運行管理者等が行う交通安全教育を中心として行う。 5 自動車の使用者は、安全運転管理者、運行管理者等を法定講習、指導者向けの研修会等へ積極的に参加させ、事業所における自主的な安全運転管理の活発化に努める。また、自動車安全運転センター安全運転中央研修所等の研修施設において、高度な運転技術、指導方法を身に付けた運転者教育指導者の育成を図る。 6 社会人を対象とした学級・講座等における交通安全教育の促進を図るなど、公民館等の社会教育施設における交通安全のための諸活動を促進するとともに、関係機関・団体、交通ボランティア等による活動を促進する。 7 大学生・専修学校生等に対しては、学生の自転車や二輪車・自動車の利用・事故等の実態に応じ、関係機関・団体等が連携し、交通安全教育の充実に努める。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 免許保有者に対する各種講習の充実（更新時講習、免許取得時講習等） 2 事業所が主体となった参加・体験・実践型の交通安全教育の推進 3 交通安全に関する学習機会の提供（市町主催の教室・講座等） <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級 ・町民・市民大学等講座 ・女性教室 4 社会教育指導者に対する研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・PTA指導者研修等 5 家庭内における交通安全教育の充実 6 各種イベント等の場におけるシートベルトコンビンサー等体験型交通安全啓発の推進 7 危険予測シミュレータによる交通安全教室の開催 	
カ 高齢者に対する交通安全教育の推進	交通企画課・運転免許管理課 くらし安全安心課・高齢対策課・市町
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者に対する交通安全教育は、運転免許の有無等により、交通行動や危険認識、交通ルール等の知識に差があることに留意しながら、加齢に伴う身体機能の変化が歩行者又は運転者としての交通行動に及ぼす影響や、運転者側から見た歩行者の危険行動について理解してもらう。また、自ら納得して安全な交通行動を実践することができるよう必要な実践的技能及び交通ルール等の知識を習得してもらうことを目標とする。 2 高齢者に対する交通安全教育を推進するため、県及び市町は、高齢者に対する交通安全指導担当者の養成、新たな教材・教具等の導入等、指導体制の充実に努める。そのほか、関係団体、交通ボランティア、医療機関・福祉施設関係者等と連携して、高齢者の交通安全教室等を開催する。 3 高齢者に対する社会教育活動・福祉活動、各種の催し等の多様な機会を活用した交通安全教 	

育を実施する。特に、運転免許を持たないなど、交通安全教育を受ける機会のなかった高齢者を中心に、高齢者交通安全等アドバイザー等の家庭訪問による個別指導、見守り活動等高齢者と日常的に接する機会を利用した助言等により、高齢者の移動の安全が地域ぐるみで確保されるように努める。この場合、高齢者の自発性を促すことに留意しつつ、高齢者の事故実態に応じた具体的な指導を行うこととし、反射材用品の活用等交通安全用品の普及にも努める。

- 4 高齢運転者に対しては、高齢者講習及び更新時講習の内容の充実に努めるほか、関係機関・団体、自動車教習所等と連携して、個別に安全運転の指導を行う講習会等を開催し、高齢運転者の受講機会の拡大を図るとともに、その自発的な受講の促進に努める。
- 5 電動車椅子を利用する高齢者に対しては、電動車椅子の製造メーカーで組織される団体等と連携して、購入時等における安全利用に向けた指導・助言を徹底するとともに、継続的な交通安全教育の促進に努める。
- 6 地域における高齢者の安全運転の普及を促進するため、高齢者交通安全等アドバイザー及び地域の高齢者に影響力のある者等を対象とした参加・体験・実践型の講習会を実施し、高齢者の安全運転に必要な知識の習得とその指導力の向上を図り、高齢者交通安全教育の継続的な推進役の養成に努める。
- 7 高齢者が安全運転サポート車等に搭載される先進安全技術を体験できる機会を設けるよう努める。
- 8 高齢化の一層の進展に的確に対応し、高齢者が安全に、かつ、安心して外出できる交通社会を形成するため、高齢者自身の交通安全意識の向上はもとより、県民全体が高齢者を見守り、高齢者に配慮する意識を高めていくことや、地域の見守り活動を通じ、地域が一体となって高齢者の安全確保に取り組むよう努める。

【事業計画の概要】

- 1 昼活キャンペーンの周知による「高齢者自転車免許証制度講習会」の新規受講者の拡大及び定期的な受講の促進
- 2 各種シミュレータを使用した交通安全教室の実施
自転車シミュレータや危険予測シミュレータを使用した交通安全教育を通じて、自転車の正しい乗り方や危険予測能力を高めるとともに、正しい交通ルールを身に付けさせる。
- 3 高齢者を中心としたこども、親の三世代交流による世代間交流交通安全教室の実施
- 4 参加・体験・実践型の交通安全教育の推進
- 5 高齢者交通安全教育隊（KAT）による街頭での交通安全指導の実施
病院やスーパー等、高齢者の日常生活の場に赴き、高齢者と対話を重ねながら、交通事故防止を呼びかける。
- 6 高齢者に対する運転免許講習時における高齢者講習のほか、社会教育活動・福祉活動、各種の催し等の多様な機会を利用した交通安全教育の実施
- 7 栃木県シルバー交通安全連絡会の開催等、関係団体、交通ボランティア、地域包括支援センター、医療機関・福祉施設関係者等と連携した交通安全教育の実施
- 8 事故防止のための具体的な指導として、反射材等の有効性を理解させ、その普及・促進を図る。

キ 障害者に対する交通安全教育の推進
ク 外国人に対する交通安全教育の推進

くらし安全安心課・教育委員会
障害福祉課・県民協働推進課・観光交流課・交通企画課・運転免許管理課・市町

【事業計画の方針】

- 1 障害者に対する交通安全教育の推進
 - (1) 障害者に対しては、交通安全のために必要な技能及び知識の習得のため、手話通訳者等の意思疎通支援者の配置、字幕入りビデオの活用等に努めるとともに、参加・体験・実践型の交通安全教育を開催するなど障害の程度に応じ、きめ細かい交通安全教育を推進する。
 - (2) 障害者を支援する介助者、交通ボランティア等の障害者に付き添う者を対象とした講習会等を開催する。
- 2 外国人に対する交通安全教育の推進

- (1) 外国人に対し、我が国の交通ルールに関する知識の普及による交通事故防止を目的として、外国人住民に対しては、母国との交通ルールの違いや交通安全に対する考え方の違いを理解してもらうなど、効果的な交通安全教育を推進するとともに、外国人を雇用する企業等を通じ、外国人の講習会等への参加を促進する。
- (2) 増加が見込まれる訪日外国人に対しても、関係機関・団体と連携し、多言語によるガイドブックやウェブサイト等各種広報媒体を活用するなど我が国の交通ルール周知活動等を推進する。
- (3) 外国人運転者に対しては、外国人の居住実態や要望等を踏まえ、日本の運転免許取得時に係る運転免許学科試験等の多言語化を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 障害者に対する交通安全教育
手話入りDVDや字幕入りDVD等を活用し、交通安全教育を充実する。
- 2 外国人に対する交通安全教育
交通ルール等に関する情報を、生活関連情報提供ホームページや外国人生活情報ガイドブック等により多言語で提供する。（（公財）栃木県国際交流協会と連携して実施）

(2) 効果的な交通安全教育の推進

効果的な交通安全教育の推進	くらし安全安心課・教育委員会・市町 交通企画課・運転免許管理課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 交通安全教育を行うに当たっては、受講者が、安全に道路を通行するために必要な技能及び知識を習得し、かつ、その必要性を理解できるようにするため、参加・体験・実践型の教育方法を積極的に活用する。 2 交通安全教育を行う機関・団体は、交通安全教育に関する情報を共有し、他の関係機関・団体の求めに応じて交通安全教育に用いる資機材の貸与、講師の派遣及び情報の提供等、相互の連携を図りながら交通安全教育を推進する。 3 受講者の年齢や道路交通への参加の態様に応じた交通安全教育指導者の養成・確保、ドライブレコーダーやシミュレータ、VR等の機器活用など、柔軟に多様な方法を活用し、着実に教育を推進するよう努める。 4 交通安全教育の効果を確認し、必要に応じて教育の方法、利用する教材等を見直して、社会やライフスタイルの変化、技術の進展を踏まえ、常に効果的な交通安全教育ができるよう努める。 5 従前の取組に加え、動画を活用した学習機会の提供、ウェブサイトやSNS等の各種媒体の積極的活用など、対面によらない交通安全教育や広報啓発活動についても効果的に推進する。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 参加・体験・実践型の交通安全教育の実施 2 交通安全教育に関する情報・資機材の共有及び講師・情報等の提供 3 交通安全教育指導者の育成、交通安全教育手法の開発 4 資機材の充実、見直しの推進 5 交通安全教育車（マロニエ号）による交通安全教育の推進 	

(3) 交通安全に関する普及啓発活動の推進

ア 交通安全県民総ぐるみ運動の推進	くらし安全安心課・市町 交通企画課
<p>【事業計画の方針】</p>	

- 1 県民一人ひとりに広く交通安全意識の高揚を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付け、県民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進するための県民運動として、国及び県の運動主催機関・団体を始め、交通安全対策協議会等の構成機関・団体が相互に連携して、交通安全県民総ぐるみ運動を組織的・継続的に展開する。
- 2 運動の重点としては、歩行者、自転車、自動車運転者の交通事故防止、夕暮れや夜間の交通事故防止等、時節や交通情勢を反映した事項を設定する。また、本県の実情に即した効果的な運動を実施するため、必要に応じて独自の重点を定める。
- 3 運動の実施に当たっては、事前に、運動の趣旨、実施期間、運動重点、実施計画等について広く住民に周知することにより、市民参加型の運動の充実・発展を図る。また、関係機関・団体が連携し、運動終了後も継続的・自主的な活動が展開されるよう、事故実態、住民や交通事故被害者等のニーズ等を踏まえた実施に努める。
- 4 地域に密着したきめ細かい活動が期待できる民間団体及び交通ボランティアの参加促進を図り、参加・体験・実践型の交通安全教室の開催等により、交通事故を身近なものとして意識させる交通安全活動を促進する。
- 5 事後においては、運動の効果を検証、評価することにより、一層効果的な運動が実施されるよう配慮する。

【事業計画の概要】

- 1 令和7(2025)年度栃木県交通安全県民運動計画
 - (1) スローガン「マナーアップ！あなたが主役です」
 - (2) 推進計画
 - ア 重点的に取り組むべき運動
 - ・高齢者交通事故防止運動 ・子どもや高齢者に優しい3S（スリーエス）運動
 - ・前照灯の早め点灯と原則ハイビームの徹底運動 ・飲酒運転根絶運動
 - イ 年間を通じて取り組む運動
 - ・「マナーアップ！あなたが主役です」運動 ・自転車の安全で適正な利用促進運動
 - ・交通事故「0（ゼロ）」宣言運動 ・シートベルト・チャイルドシート着用運動
 - ウ 各季の運動
 - ・春の交通安全県民総ぐるみ運動（4/6～4/15）
 - ・夏の交通安全運動（6/1～8/31の間）（各機関・団体の実態に応じて定める。）
 - ・秋の交通安全県民総ぐるみ運動（9/21～9/30）
 - ・年末の交通安全県民総ぐるみ運動（12/11～12/31）
 - エ 特別な運動
 - ・暴走族等根絶推進強化月間（6月）
 - オ 県民運動強化日
 - ・子どもや高齢者を交通事故から守る日（毎月3日・休日のときはその前後）
 - ・自転車の安全で適正な利用強化の日（毎月8日・休日のときはその前後）
 - ・シートベルト・チャイルドシート着用徹底の日（毎月25日・休日のときはその前後）
 - ・交通事故死ゼロを目指す日（国民運動）（4月10日、9月30日）

イ 横断歩行者の安全確保

くらし安全安心課・交通企画課・市町

【事業計画の方針】

- 1 信号機のない横断歩道での死亡事故では、自動車の横断歩道手前での減速が不十分なものが多いため、運転者に対して横断歩道手前での減速義務や横断歩道における歩行者優先義務を再認識させるべく、交通安全教育や交通指導取締り等を推進する。
- 2 歩行者に対しては、横断歩道が近くにあるときは横断歩道を渡ること、信号機のあるところでは、その信号に従うといった交通ルールの周知を図る。
- 3 運転者に対して横断する意思を明確に伝え、安全を確認してから横断を始め、横断中も周りに気をつけること等、歩行者が自らの安全を守るための交通行動を促すための交通安全教育等を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 SNS等を活用した効果的な広報啓発活動の推進
- 2 運転者・歩行者双方への交通安全教育

ウ 自転車の安全利用の推進

くらし安全安心課・こども政策課・教育委員会
文書学事課・交通企画課・市町

【事業計画の方針】

- 1 自転車が道路を通行する場合は、車両としてのルールを遵守するとともに交通マナーを実践しなければならないことを理解させる。
- 2 自転車乗用中の交通事故防止や自転車の安全利用を促進するため、「自転車安全利用五則」を活用するなどにより、歩行者や他の車両に配慮した通行等自転車の正しい乗り方に関する普及啓発の強化を図る。自転車は、配達や通勤・通学を始め、様々な目的で利用されているが、交通ルールに関する理解が不十分なことも背景として、ルールやマナーに違反する行動が多いため、交通安全教育等の充実を図る。
- 3 自転車は、歩行者等と衝突した場合には加害者となる側面も有しており、交通に参加する者としての十分な自覚・責任が求められることから、そうした意識の啓発を図るとともに、加害者になった場合への備えとしてTSマーク付帯保険等の損害賠償責任保険等加入の普及啓発を推進する。
- 4 自転車指導啓発重点地区・路線を中心に広報啓発や指導取締りを推進するとともに、悪質・危険な行為に対しては、自転車運転者講習制度を適切に運用し、自転車利用者のルールに対する遵法意識を醸成する。
- 5 薄暮の時間帯から夜間にかけて自転車事故を防止するため、灯火点灯の徹底と、反射材用品等の取付けの促進により、自転車の被視認性の向上を図る。
- 6 自転車に同乗する幼児の安全を確保するため、保護者に対して幼児の同乗が運転操作に与える影響等を体感できる参加・体験・実践型の交通安全教育を実施する。また、幼児を同乗させる場合において安全性に優れた幼児二人同乗用自転車の普及を促進する。そのほか、シートベルトを備えている幼児用座席に幼児を乗せるときは、シートベルトを着用させるよう広報啓発活動を推進する。
- 7 全ての自転車利用者に対して、自転車乗車時の頭部保護の重要性とヘルメット着用による被害軽減効果についての理解促進に努め、ヘルメット着用の徹底を図る。
- 8 自転車を用いた配達業務中の交通事故を防止するため、関係事業者等に対する交通安全対策の働き掛け、自転車配達員への街頭における指導啓発、飲食店等を通じた配達員への交通ルール遵守の呼び掛け等を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 「栃木県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき、自転車の関係する交通事故の防止や自転車事故の被害者の保護を図る。
- 2 「自転車安全利用五則」を活用し、自転車の歩道通行等に関するルール、歩行者等に配慮した通行、正しい乗り方、ヘルメットの着用等について、普及啓発の強化を図る。
- 3 自転車の灯火の点灯を徹底させ、さらに側面等に反射材の取付けを促進する。
- 4 「交通安全子供自転車大会」や「自転車交通安全教室」等の教育効果を高め、正しい交通知識の習得と習慣化を図る。
- 5 自転車シミュレータを活用し、安全確認を中心に正しい自転車の乗り方を身に付けてもらい、安全な自転車利用の定着を図る。
- 6 高齢者自転車免許証制度講習会を積極的に開催し、高齢者に対する自転車安全利用の促進を図る。
- 7 全ての年齢層の自転車利用者へヘルメットの着用を促進する。
- 8 万が一の交通事故に備える(賠償責任)ため、TSマーク付帯保険をはじめとした各種自転車保険への加入促進を図る。

エ 後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトの正しい着用の徹底 オ チャイルドシートの正しい使用の徹底	暮らし安全安心課・交通企画課 こども政策課・市町
---	-----------------------------

【事業計画の方針】

- 1 後部座席を含めたすべての座席におけるシートベルトの正しい着用の徹底
 - (1) シートベルトの着用効果及び正しい着用方法について理解を求め、後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトの正しい着用の徹底を図る。
 - (2) 後部座席のシートベルト非着用時の致死率は、着用時と比較して格段に高くなるため、県や市町、警察、関係機関・団体等との協力の下、衝突実験映像やシートベルトコンビンサーを用いた着用効果が実感できる参加・体験型の交通安全教育を推進するほか、あらゆる機会・媒体を通じて着用徹底の啓発活動等を展開する。
- 2 チャイルドシートの正しい使用の徹底
 - (1) チャイルドシートの使用効果及び正しい使用方法について、理解を深めるための広報啓発・指導を推進し、正しい使用の徹底を図る。特に、比較的年齢の高い幼児の保護者に対し、その取組を強化する。
 - (2) 不適正使用時の致死率は、適正使用時と比較して格段に高くなることから、チャイルドシートの使用効果及び使用方法について、着用推進シンボルマーク等を活用しつつ、幼稚園・保育所・認定こども園、病院、販売店等と連携した保護者に対する効果的な広報啓発・指導を推進する。
 - (3) 6歳以上であっても、体格等の状況により、シートベルトを適切に着用させることができないこどもにはチャイルドシートを使用させることについて、広報啓発に努める。
 - (4) チャイルドシートについて、側面衝突時の安全確保等の要件を定めた新基準（i-Size）に対応したチャイルドシートの普及啓発等により、より安全なチャイルドシートの普及拡大を図る。
 - (5) 市町や民間団体等が実施している各種支援制度の活用を通じて、チャイルドシートを利用しやすい環境づくりを促進する。

【事業計画の概要】

- 1 各種広報媒体を活用した積極的な広報啓発を推進する。
- 2 シートベルトコンビンサー等を活用したシートベルトによる交通事故発生時の被害軽減効果を実感できる体験型の交通安全教育を推進する。
- 3 シートベルト・チャイルドシート着用徹底の日（毎月25日・休日のときはその前後）における広報啓発を強化する。

カ 反射材用品等の普及促進	暮らし安全安心課・市町 交通企画課
---------------	----------------------

【事業計画の方針】

- 1 夕暮れ時から夜間における歩行者及び自転車利用者の事故防止に効果が期待できる反射材用品等の普及を図るため、各種広報媒体を活用して積極的な広報啓発を推進する。また、反射材用品等の視認効果、使用方法等について理解を深めるため、参加・体験・実践型の交通安全教育等を実施する。
- 2 反射材用品等の普及に当たっては、衣服や靴、鞆等の身の回り品への反射材用品の組み込みを推奨するとともに、適切な反射性能等を有する製品についての情報提供に努める。

【事業計画の概要】

- 1 各種広報媒体を活用した積極的な広報啓発を推進する。
- 2 反射材の効果、使用方法等を理解させるため、参加・体験・実践型の交通安全教育及びキャンペーンを開催する。
- 3 全年齢層を対象とした身の回り品への反射材の普及促進を図る。

4 適切な反射機能を有する製品の情報を提供する。	
キ 飲酒運転根絶に向けた交通安全教育及び広報啓発活動等の推進	くらし安全安心課・市町 交通企画課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 飲酒運転の危険性や飲酒運転による交通事故の実態を周知するための交通安全教育や広報啓発を引き続き推進する。また、交通ボランティアや安全運転管理者、運行管理者、酒類製造・販売業者、酒類提供飲食店、駐車場関係者等と連携してハンドルキーパー運動の普及啓発やアルコール検知器を活用した運行前検査の励行に努めるなど、地域、職域等における飲酒運転根絶の取組を更に進め、「飲酒運転を絶対にしない、させない」という県民の規範意識の確立を図る。</p> <p>2 飲酒運転をした者について、アルコール依存症等が疑われる場合に、地域の実情に応じ、運転者やその家族が相談、指導及び支援等を受けられるよう、関係機関・団体が連携した取組の推進に努める。</p> <p>3 各市町で取り組んでいる飲酒運転根絶に向けた施策については、他の地域における施策実施に当たっての参考となるよう、積極的な情報共有を図っていく。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 各種広報媒体を活用した積極的な広報啓発を推進する。</p> <p>2 酒類提供業者や飲食店等の業界と連携した広報啓発を推進する。</p>	
ク 効果的な広報の実施	くらし安全安心課・市町・交通企画課 東日本高速道路・道路管理者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 家庭、学校、職場、地域等と一体となった広範なキャンペーンや、官民が一体となった各種の広報媒体を通じての集中的なキャンペーン等を積極的に行うことにより、高齢者の交通事故防止、こどもの交通事故防止、シートベルト及びチャイルドシートの正しい着用の徹底、飲酒運転の根絶、違法駐車等の排除等を図る。運転中のスマートフォンの操作等の危険性について周知を図る。</p> <p>2 交通安全に果たす家庭の役割は極めて大きいことから、家庭向け広報媒体の積極的な活用、市町、自治会等を通じた広報等により家庭に浸透するきめ細かな広報の充実に努め、こども、高齢者等を交通事故から守る。また、妨害運転や飲酒運転等の悪質・危険な運転を根絶する機運の高揚を図る。</p> <p>3 民間団体の交通安全に関する広報活動を援助するため、県及び市町は、交通安全に関する資料、情報等の提供を積極的に行う。また、報道機関の理解と協力を求め、全県民的気運の盛り上げを図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 県及び市町における広報</p> <p>(1) 刊行物、テレビ、ラジオ等による広報 高齢者の事故防止、飲酒運転等無謀運転の根絶、シートベルト・チャイルドシートの全席全員着用の推進、交差点の事故防止、歩行者・自転車の事故防止等について広報する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木放送及びエフエム栃木による交通安全スポットCM放送 ・ 交通マナー啓発用横断幕・懸垂幕の掲出 ・ 県広報紙及び市町広報紙等への掲載 ・ 交通事故防止チラシの発行（随時） <p>(2) 広報車による広報 「交通安全県民総ぐるみ運動」をはじめ、「交通事故死ゼロを目指す日」（国民運動）、「交通死亡事故多発警報発令」等の実施にあたっては、広報車による巡回広報を実施する。</p>	

- (3) 栃木県交通・生活安全安心県民大会の開催
 県民一人ひとりの交通安全意識の高揚と県全体の交通安全意識の普及、啓発を図り、県民の交通安全を確保することを目的に、県民大会（交通安全及び生活安全）を開催する。
 《第17回栃木県交通・生活安全安心県民大会》
 - ・主催 栃木県、栃木県警察本部、栃木県教育委員会、市町、栃木県交通安全協会、栃木県安全運転管理者協議会、栃木県交通安全母の会連合会
 - ・期日 令和7(2025)年11月4日(火)
 - ・場所 栃木県総合文化センターサブホール

2 警察における広報

- (1) 地域の実情に応じた広報活動の推進
 交通死亡事故・重大事故発生時、交通安全運動実施時、新設道路供用開始に伴う交通規制時など、タイミングを捉えて地域の実情に応じた効果的な広報を実施する。また、広報の内容については、真に注意を喚起すべき事項に的を絞り、簡潔かつ一般に馴染みのある文言を用いるなど、県民にとって心に届く分かりやすいものとなるよう配慮する。
- (2) 様々な広報媒体による分かりやすい広報活動
 広報効果を高めるため、数多くの方が目にするSNSや街頭ビジョン等の様々な広報媒体を活用し、インパクトのあるキャッチコピーや人気キャラクターを活用した分かりやすい内容の広報活動を行う。
- (3) 広報資料の積極的な提供
 新聞、ラジオ、テレビ等の報道機関、県・市町等の関係機関・団体、会社・事業所等が、それぞれ自主的に効果的な交通安全広報を展開できるよう、必要な素材を積極的に提供するとともに適切な指導・助言を行う。
- (4) 各警察署の発行する「警察署だより」や交番・駐在所の発行する「広報紙」を活用した迅速かつ効果的な広報を実施する。

3 高速道路における啓発活動の実施

高速道路における交通安全について、道路交通情報板、ハイウェイラジオ、チラシ、ポスター等を活用し、ドライバーや同乗者への交通安全啓発活動を実施する。
 また、交通混雑時期においては、関係機関と連携し、サービスエリア等でキャンペーンを実施する。

4 情報の効果的な提供

新聞、ラジオ、テレビ等に対する積極的な情報提供を行い、有効かつ効果的な広報を実施する。

ケ その他の普及啓発活動の推進	くらし安全安心課・市町 交通企画課・栃木運輸支局
-----------------	-----------------------------

【事業計画の方針】

- 1 高齢者の交通事故防止に関する県民の意識を高めるため、高齢者の歩行中や自転車乗用中の事故実態の広報を積極的に行う。また、高齢者に対する高齢運転者標識（高齢者マーク）の表示の促進を図るとともに、他の年齢層に対しても、高齢者の特性を理解し、高齢者マークを取り付けた自動車への保護意識を高めるように努める。
- 2 薄暮の時間帯から夜間にかけて重大事故が多発する傾向にあることから、夜間の重大事故の主原因となっている最高速度違反、飲酒運転、歩行者の横断違反等による事故実態・危険性等を広く周知し、これら違反の防止を図る。また、季節や気象の変化、地域の実態等に応じ、交通情報板等を活用するなどして自動車及び自転車の前照灯の早期点灯、対向車や先行車がない状況におけるハイビームの使用を促すとともに、歩行者、自転車利用者の反射材用品等の着用を推進する。
- 3 二輪乗用中の死者の損傷部位は頭部が最も多く、次いで胸部となっており、二輪車運転者の被害軽減を図るため、ヘルメットの正しい着用とプロテクターの着用について、関係機関・団体と連携した広報啓発活動を推進するなど、胸部等保護の重要性について理解増進に努める。
- 4 乗用型トラクターの事故防止を図るため、作業機を装着・けん引した状態で公道を走行する際の灯火器等の設置、キャビン・フレームの装備、シートベルトの着用等について周知を行う。

- 5 県民が、交通事故の発生状況を認識し、交通事故防止に関する意識の啓発等を図ることができるよう、地理情報システム等を活用した交通事故分析の高度化を推進し、インターネット等各種広報媒体を通じて事故データ及び事故多発地点に関する情報の提供・発信に努める。
- 6 衝突被害軽減ブレーキや自動運転等の先進技術について、ユーザーが過信することなく使用してもらえるような情報を始め、自動車アセスメント情報や、安全装置の有効性、ドライブレコーダーの普及啓発、自動車の正しい使い方、点検整備の方法、交通事故の概況等に係る情報を総合的な安全情報として取りまとめ、自動車ユーザー、自動車運送事業者、自動車製作者等の情報を受け手に応じ適時適切に届けることにより、関係者の交通安全に関する意識を高める。
- 7 L R T（次世代型路面電車システム）について、県民がL R Tと共に暮らすライフスタイルへ円滑に移行し、交通事故防止が図られるよう、L R Tと共有する道路空間における交通ルール等の安全教育や周知啓発を推進し、理解促進を図っていく。
- 8 交通安全に取り組む学識経験者、有識者等による、研究発表や成果発表、討議等を通じて、交通事故防止について考える機会を設けて、県民の交通安全に関する意識を高める。

【事業計画の概要】

- 1 交通安全ラジオスポットCMによる広報の実施
- 2 テレビCM・新聞広告による広報の実施
- 3 県及び県警ホームページによる交通事故情報等の提供
- 4 「ハイビーム大作戦」の周知広報
- 5 「ライト4（フォー）運動」の推進（10月1日から2月末日まで）
- 6 「マナーアップ！あなたが主役です」広報啓発キャンペーンの実施
- 7 動画等を活用したL R Tの交通ルールに係る交通安全教育の実施

(4) 交通の安全に関する民間団体等の主体的活動の推進

交通の安全に関する民間団体等の主体的活動の推進	くらし安全安心課・市町 交通企画課																											
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 交通安全を目的とする民間団体については、交通安全指導者の養成等の事業及び諸行事に対する援助並びに交通安全に必要な資料の提供活動を充実するなど、その主体的な活動を促進する。 2 地域団体、自動車製造・販売団体、自動車利用者団体等については、それぞれの立場に応じた交通安全活動が地域の実情に即して効果的かつ積極的に行われるよう、交通安全県民総ぐるみ運動等の機会を利用して働き掛けを行う。 3 交通安全対策に関する行政・民間団体間及び民間団体相互において定期的に連絡協議を行い、交通安全に関する県民挙げての活動の展開を図る。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主な民間団体等の組織状況 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">① 栃木県交通安全協会 （栃木県交通安全活動推進センター）</td> <td style="width: 20%;">19支所</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>② 地区交通安全協会</td> <td>19地区</td> <td>会員数 約50万人</td> </tr> <tr> <td>③ 栃木県安全運転管理者協議会</td> <td>19地区</td> <td>約4,950事業所</td> </tr> <tr> <td>④ 栃木県交通安全母の会連合会</td> <td>13支部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 栃木県地区交通安全協会女性部連合会</td> <td>18支所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 栃木県交通指導員連合会</td> <td>一般交通指導員</td> <td>783人</td> </tr> <tr> <td>⑦ 交通教育指導員</td> <td>28人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧ 栃木県高速道路交通安全協議会</td> <td>236事業所</td> <td>（トラック協会、バス協会、タクシー協会、協賛団体）</td> </tr> <tr> <td>⑨ 栃木県トラック協会</td> <td>13支部</td> <td>会員事業所数 855事業所</td> </tr> </table> 		① 栃木県交通安全協会 （栃木県交通安全活動推進センター）	19支所		② 地区交通安全協会	19地区	会員数 約50万人	③ 栃木県安全運転管理者協議会	19地区	約4,950事業所	④ 栃木県交通安全母の会連合会	13支部		⑤ 栃木県地区交通安全協会女性部連合会	18支所		⑥ 栃木県交通指導員連合会	一般交通指導員	783人	⑦ 交通教育指導員	28人		⑧ 栃木県高速道路交通安全協議会	236事業所	（トラック協会、バス協会、タクシー協会、協賛団体）	⑨ 栃木県トラック協会	13支部	会員事業所数 855事業所
① 栃木県交通安全協会 （栃木県交通安全活動推進センター）	19支所																											
② 地区交通安全協会	19地区	会員数 約50万人																										
③ 栃木県安全運転管理者協議会	19地区	約4,950事業所																										
④ 栃木県交通安全母の会連合会	13支部																											
⑤ 栃木県地区交通安全協会女性部連合会	18支所																											
⑥ 栃木県交通指導員連合会	一般交通指導員	783人																										
⑦ 交通教育指導員	28人																											
⑧ 栃木県高速道路交通安全協議会	236事業所	（トラック協会、バス協会、タクシー協会、協賛団体）																										
⑨ 栃木県トラック協会	13支部	会員事業所数 855事業所																										

⑩ 栃木県指定自動車教習所協会	35教習所
⑪ 栃木県二輪車普及安全協会	218加盟店
⑫ 栃木県地域交通安全活動推進委員協議会連合会	19支部 推進委員数 200人
⑬ 栃木県自動車販売店交通安全対策推進協議会	35加盟店 (社)
⑭ 栃木県バス協会	70事業所
⑮ 栃木県タクシー協会	95事業所
2 主な会議及び研修会の状況	
① 交通安全対策協議会の開催 (年1回)	
② 交通指導員連合会全体研修会の開催 (年1回)	
③ 交通安全教育指導員全体研修会の開催 (年1回)	
3 交通安全ボランティア等の資質の向上に資する援助活動を推進する。	

(5) 地域における交通安全活動への参加・協働の推進

地域における交通安全活動への参加・協働の推進	くらし安全安心課・市町 交通企画課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 交通の安全は、住民の安全意識により支えられることから、地域住民に留まらず、当該地域を訪れ、関わりを有する通勤・通学者等も含め、交通社会の一員であるという当事者意識を持つよう意識改革を促すことが重要である。</p> <p>2 交通安全意識の高揚に当たっては、行政、民間団体、企業等と住民が連携を密にした上で、それぞれの地域における実情に即した身近な活動を推進し、住民の参加・協働を積極的に推進する。</p> <p>3 地域の交通安全への住民等の理解に資するため、住民や道路利用者が主体的に行う「ヒヤリ地区」の作成、交通安全総点検、交通安全市町計画の積極的活用・広報などのほか、交通安全の取組に地域住民等の意見を積極的にフィードバックするよう努める。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 住民が主体となった交通安全総点検の実施を促進する。</p> <p>2 地域に根ざした具体的な目標を設定するなど、行政と市民の連携による交通安全対策を推進する。</p>	

3 安全運転の確保

(1) 運転者教育等の充実

ア 運転免許を取得しようとする者に対する教育の充実	運転免許管理課			
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 自動車教習所における教習の充実 自動車教習所の教習に関し、交通事故の発生状況、道路環境等の交通状況を勘案しつつ、教習カリキュラムの見直し・検討を進めるほか、教習指導員等の資質の向上、教習内容及び技法の充実を図り、教習水準を高める。また、教習水準に関する情報の県民への提供に努める。</p> <p>2 取得時講習の充実 普通免許等を取得しようとする者に対する取得時講習の充実に努める。</p> <p>【事業計画の概要】 令和7(2025)年度指定自動車教習所職員法定講習計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">受講対象者区分</td> <td style="width: 33%;">実施回数</td> <td style="width: 33%;">受講者数(人)</td> </tr> </table>		受講対象者区分	実施回数	受講者数(人)
受講対象者区分	実施回数	受講者数(人)		

副 管 理 者	4	121
技 能 検 定 員	10	430
教 習 指 導 員	6	249
計	20	800

イ 運転者に対する再教育等の充実	運転免許管理課
------------------	---------

【事業計画の方針】

- 1 各種講習により運転者に対する再教育が効果的に行われるよう、講習施設・設備の拡充を図るほか、講習指導員の資質向上、講習資機材の高度化並びに講習内容及び講習方法の充実に努める。
- 2 自動車教習所については、既に運転免許を取得した者に対する再教育も実施するなど機能の充実に努める。

【事業計画の概要】

運転者に対する再教育等の充実を図るため、運転免許センター、各警察署及び指定自動車教習所において関係する講習、既に運転免許を取得した者に対する再教育などを適正に推進する。

ウ 妨害運転等の悪質・危険な運転者に対する処分者講習での再教育	運転免許管理課
---------------------------------	---------

【事業計画の方針】

運転適性検査により、受講者の運転特性を診断した上で、必要な個別的指導等を実施し、悪質・危険な運転特性の矯正を図る。

エ 二輪車安全運転対策の推進	交通企画課・運転免許管理課 交通機動隊・くらし安全安心課
----------------	---------------------------------

【事業計画の方針】

取得時講習のほか、二輪車安全運転講習及び原付安全運転講習の推進に努める。また、指定自動車教習所における交通安全教育体制の整備等を促進し、二輪車運転者に対する教育の充実強化に努める。

【事業計画の概要】

- 1 関係機関・団体と連携した、参加・体験型の二輪車講習会の開催
- 2 二輪車運転者に対する広報啓発活動の推進

オ 高齢運転者対策の充実	くらし安全安心課・市町 運転免許管理課・交通企画課 道路管理者
--------------	---------------------------------------

【事業計画の方針】

- 1 高齢者に対する教育の充実
高齢者に対する交通安全教育の拡充等に努める。特に、高齢者講習においては、運転技能の低下に着目したきめ細かな講習を実施するとともに、より効果的かつ効率的な教育に努める。
- 2 臨時適性検査等の確実な実施
認知機能検査、安全運転相談等の機会を通じて、認知症の疑いがある運転者の把握に努め、臨時適性検査等の確実な実施により、安全な運転に支障のある者については運転免許の取消し等の行政処分を行う。また、臨時適性検査等の円滑な実施のため、関係機関・団体等と連携し

て、同検査等を実施する認知症に関する専門医の確保を図るなど、体制の強化に努める。

3 高齢運転者標識（高齢者マーク）の活用

高齢運転者の安全意識を高めるため、高齢者マークの積極的な使用の促進を図る。

4 高齢者支援施策の推進

自動車等の運転に不安を有する高齢者等が運転免許証を返納しやすい環境の整備を図るため、関係機関が連携し、運転免許の自主返納と運転経歴証明書制度の周知を図る。また、高齢者を始めとする地域住民の移動手段の確保に向け、地方公共団体が中心となって策定した地域公共交通のマスタープラン（地域公共交通計画）に基づき、公共交通サービスの改善を図るとともに、地域の輸送資源の総動員による持続可能な移動手段の確保・充実を図る取組を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 関係機関、団体と緊密な連携を図りながら、「安全運転サポート車」の試乗会等の各種イベントや「安全運転サポート車」を用いた参加・体験・実践型の交通安全教育を開催して普及啓発に努めるとともに、先進安全技術の限界や注意点を正しく理解させる。
- 2 ポスターの掲示、チラシの配布、動画の放映、広報誌への掲載やメディア等を活用し、広報啓発活動の強化を図り、広く県民に自主返納制度を周知させる。
- 3 「栃木県高齢者運転免許証自主返納サポート事業」等により、運転免許を自主返納しやすい環境の整備を推進する。
- 4 バス事業者や市町村生活交通等の運行を支援する。
- 5 運転免許証を自主返納した高齢者に対する、市町バス等の割引を実施する。

カ シートベルト、チャイルドシート及びヘルメットの正しい着用の徹底

くらし安全安心課・市町交通企画課・交通指導課

【事業計画の方針】

- 1 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトの着用とチャイルドシートの正しい使用及び二輪乗車時におけるヘルメットの正しい着用の徹底を図るため、関係機関・団体と連携し、各種講習・交通安全運動等あらゆる機会を通じて、着用効果の啓発等着用推進キャンペーンを積極的に行う。
- 2 シートベルト、チャイルドシート及びヘルメット着用義務違反に対する街頭での交通指導取締りを推進する。

【事業計画の概要】

- 1 シートベルト、チャイルドシート及び乗車用ヘルメット着用義務違反者に対する指導取締りの強化
- 2 広報媒体を活用した広報啓発活動の推進（テレビ、ラジオ、新聞、インターネット等）
- 3 関係機関団体による街頭広報
- 4 シートベルトコンビンサー等を活用したシートベルトによる交通事故発生時の被害軽減効果を実感できる体験型の交通安全教育を推進する。

キ 自動車運転代行業の指導育成等

交通企画課・道路管理者

【事業計画の方針】

自動車運転代行業の業務の適正な運営を確保し、交通の安全及び利用者の保護を図るため、自動車運転代行業者に対し、立入検査等を行う。また、無認定営業、損害賠償措置義務違反、無免許運転等の違法行為の厳正な取締りを実施する。

【事業計画の概要】

自動車運転代行業者に対して立入検査、街頭指導等を通して、業務の適正な運営と交通の安全、

利用者の保護を推進する。	
ク 自動車運送事業等に従事する運転者に対する適性診断の受診促進	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】 自動車運送事業等に従事する高齢運転者等に対して適正診断を受診させるよう、事業者は義務付けられていることから、同制度の周知を図り、適性診断の受診を推進する。</p>	
ケ 危険な運転者の早期排除	運転免許管理課
<p>【事業計画の方針】 行政処分制度の適正かつ迅速な運用により長期未執行者の解消に努めるほか、自動車等の安全な運転に支障を及ぼすおそれがある病気等にかかっていると疑われる者等に対する臨時適性検査等の迅速・的確な実施に努めるなど、危険な運転者の早期排除を図る。</p> <p>【事業計画の概要】 運転免許の取消しや停止の処分を待たずに、運転免許の効力を停止することができる仮停止の積極的運用を図るとともに、上申時の早期執行を推進する。</p>	

(2) 運転免許業務の改善

運転免許業務の改善	運転免許管理課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 県民の立場に立った運転免許業務を行うため、手続の簡素化の推進により更新負担の軽減を図るとともに、高齢者講習については、自動車教習所等と連携して、受講者の受入体制の拡充を図る。 2 運転免許試験場における障害者等のための設備・資機材の整備及び安全運転相談活動の充実を図る。 	

(3) 安全運転管理の推進

安全運転管理の推進	交通企画課・交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全運転管理者及び副安全運転管理者（以下「安全運転管理者等」という。）に対する講習の充実等により、これらの者の資質及び安全意識の向上を図る。 2 安全運転管理者等による若年運転者対策及び貨物自動車の安全対策の一層の充実を図るとともに、安全運転管理者等の未選任事業所の一掃を図り、企業内の安全運転管理体制を充実強化し、安全運転管理業務の徹底を図る。 3 使用者、安全運転管理者等による下命、容認違反等については、使用者等の責任追及を徹底し適正な運転管理を図る。 4 事業活動に伴う交通事故防止を更に促進するため、映像記録型ドライブレコーダー、デジタル式運行記録計等（以下「ドライブレコーダー等」という。）の安全運転の確保に資する車載機器の普及促進に努める。また、ドライブレコーダー等によって得られた映像を元に、身近な道路に潜む危険や、日頃の運転行動の問題点等の自覚を促す交通安全教育や安全運転管理への活用方法について周知を図る。 	

5 安全運転管理者業務が拡充され、運転前後の運転者の酒気帯びの有無の確認が定められたことから、法定講習等あらゆる機会を通じてこの規定の周知を図る。

【事業計画の概要】

- 1 安全運転管理者等に対する法定講習の充実
- 2 安全運転管理者未選任事業所の一掃
- 3 安全運転管理者等による事業所内での交通安全教育の充実
- 4 安全運転管理者業務の拡充（酒気帯びの有無の確認）の周知徹底

(4) 事業用自動車の安全プラン等に基づく安全対策の推進

<p>ア 運輸安全マネジメント等を通じた安全体質の確立 イ 抜本的対策による飲酒運転、迷惑運転等悪質な法令違反の根絶</p>	<p>栃木運輸支局</p>
--	---------------

【事業計画の方針】

- 1 運輸安全マネジメント等を通じた安全体質の確立
 - (1) 事業者の安全管理体制の構築・改善状況を国が確認する運輸安全マネジメント評価を引き続き実施する。
 - (2) 運輸安全マネジメント評価を通じて、運輸事業者による防災意識の向上及び事前対策の強化等を図り、運輸防災マネジメントの取組を強化するとともに、感染症による影響を踏まえた運輸事業者の安全に係る取組及び事業者によるコンプライアンスを徹底・遵守する意識付けの取組を的確に確認する。
- 2 飲酒運転、迷惑運転等の根絶
 - (1) 点呼時にアルコール検知器を使用した酒気帯びの有無の確認を徹底するよう指導する。また、常習飲酒者を始めとした運転者や運行管理者に対し、アルコールの基礎知識や節酒方法等の飲酒運転防止の専門的な指導を実施するアルコール指導員の普及促進を図り、事業者における飲酒運転ゼロを目指す。また、薬物使用による運行の根絶に向け啓発を続ける。
 - (2) スマートフォンの画面を注視したり、通話したりしながら運転する「ながら運転」、他の車両の通行を妨害し、重大な交通事故にもつながる「あおり運転」といった迷惑運転について、運転者に対する指導・監督を実施するよう、事業者に対し指導を行う。

<p>ウ ICT・新技術を活用した安全対策の推進</p>	<p>栃木運輸支局</p>
------------------------------	---------------

【事業計画の方針】

- 1 事業者による事故防止の取組を推進するため、衝突被害軽減ブレーキ等のASV装置や運行管理に資する機器等の普及促進に努める。
- 2 自動車や車載器等の通信システムにより取得した運転情報や、車両と車載機器、ヘルスケア機器等を連携させた総合的データを活用したシステムの普及を図り、更なる事故の削減を目指す。
- 3 運行管理に利用可能なICT技術を活用することにより、働き方改革の実現に加え、運行管理の質の向上による安全性の向上を諮るため、普及を促進する。

<p>エ 超高齢社会におけるユニバーサルサービス連携強化を踏まえた事故の防止対策</p>	<p>栃木運輸支局</p>
--	---------------

【事業計画の方針】

事業用自動車の運転者の高齢化、及び高齢者が被害者となる事故の増加を踏まえ、高齢運転者による事故防止対策を推進するとともに、乗合バスにおける車内事故の実態を踏まえた取組を実施する。

オ 業態ごとの事故発生傾向、主要な要因等を踏まえた事故防止対策 カ 事業用自動車の事故調査委員会の提案を踏まえた対策 キ 運転者の健康起因事故防止対策の推進	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 業態ごとの事故発生傾向、主要な要因等を踏まえた事故防止対策</p> <p>(1) 輸送の安全を図るため、トラック・バス・タクシーの業態毎や運転者の年齢、健康状態等の特徴的な事故傾向を踏まえた事故防止の取組を現場関係者とも一丸となって実施させるとともに、運転者に対する指導・監督マニュアルの策定や、より効果的な指導方法の確立など、更なる運転者教育の充実・強化を検討・実施する。</p> <p>(2) 平成28(2016)年に発生した軽井沢スキーバス事故を踏まえ、安全・安心な貸切バスの運行を実現するための総合的な対策が取りまとめられたところ、乗客の死傷事故低減を図るためフォローアップを行いながら対策を推進する。</p> <p>2 事業用自動車の事故調査委員会の提案を踏まえた対策</p> <p>社会的影響の大きな事業用自動車の重大事故については、事業用自動車事故調査委員会における事故の背景にある組織的・構造的問題の更なる解明を含めた原因分析、より客観的で質の高い再発防止策の提言を受け、事業者等の関係者が適切に対応し、事故の未然防止に向けた取組を促進する。</p> <p>3 運転者の健康起因事故防止対策の推進</p> <p>運転者の疾病により、運転を継続できなくなる健康起因事故を防止するため、「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」の周知・徹底を図るとともに、睡眠時無呼吸症候群、脳血管疾患、心臓疾患・大血管疾患等の主要な疾病について、対策ガイドラインの周知・徹底を図り、スクリーニング検査の普及を促進する。</p>	
ク 自動車運送事業者に対するコンプライアンスの徹底	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 労働基準法等の関係法令等の履行及び運行管理の徹底を図るため、飲酒運転等の悪質違反を犯した事業者、重大事故を引き起こした事業者及び新規参入事業者等に対する監査を徹底するとともに、関係機関合同による監査・監督を実施し、不適切な事業者に対しては厳正な処分を行う。また、ITを活用して効果的・効率的な監査・監督を実施する。</p> <p>2 関係行政機関との連携として、相互の連絡会議の開催及び指導監督結果の相互通報制度等の活用により、過労運転に起因する事故等の通報制度の的確な運用と業界指導の徹底を図る。</p> <p>3 事業者団体等関係団体による指導として、適正化事業実施機関を通じ、過労運転・過積載の防止等、運行の安全を確保するための指導の徹底を図る。</p>	
ケ 自動車運送事業安全性評価事業の促進等	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 全国貨物自動車運送適正化事業実施機関において、貨物自動車運送事業者について、利用者が安全性の高い事業者を選択することができるようにする。また、事業者全体の安全性向上に資するものとして実施している「貨物自動車運送事業安全性評価事業」（通称Gマーク事業）を促進する。</p> <p>2 国、県、市町及び民間団体等において、貨物自動車運送を伴う業務を発注する際には、それぞれの業務の範囲内で道路交通の安全を推進するとの観点から、安全性優良事業所（通称Gマーク認定事業所）の認定状況も踏まえつつ、関係者の理解も得ながら該当事業所が積極的に選択されるよう努める。</p>	

3 貸切バス事業者安全性評価認定実施機関において、貸切バス事業者の安全性や安全の確保に向けた取組状況を評価し、認定・公表することで、貸切バスの利用者や旅行会社がより安全性の高い貸切バス事業者を選択しやすくする「貸切バス事業者安全性評価認定制度」を推進し、貸切バス事業者の安全性の確保に向けた意識の向上や取り組みの促進を図り、より安全な貸切バスサービスの提供に努める。

(5) 交通労働災害の防止等

ア 交通労働災害の防止	栃木労働局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 交通労働災害防止のためのガイドラインの周知徹底を行うことにより、事業場における管理体制の確立、適正な労働時間等の管理、適正な走行管理、運転者に対する教育、健康管理、交通労働災害防止に対する意識の高揚等を促進する。</p> <p>2 これらの対策が効果的に実施されるよう関係団体と連携して、事業場における交通労働災害防止に関する管理者の選任、交通労働災害防止のためのガイドラインに基づく同管理者及び運転者に対する教育の実施を推進するとともに、事業場に対する個別指導等を実施する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 「交通労働災害防止のためのガイドライン」の周知徹底</p> <p>2 貨物自動車等の点検整備の徹底</p> <p>3 職場における腰痛予防対策指針の周知</p> <p>4 健康診断結果に基づき事業者が講ずべき措置に関する指針の周知徹底</p> <p>5 事業者・団体等に対する指導等の実施</p> <p>(1) 関係事業者・団体等に対する指導援助</p> <p>(2) 関係荷主に対する協力要請</p> <p>(3) 関係広報紙による周知</p> <p>(4) 自動車運転者時間管理等指導</p>	
イ 運転者の労働条件の適正化等	栃木労働局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 自動車運転者の労働時間、休日、割増賃金、賃金形態等の労働条件の改善を図るため、労働基準法等の関係法令及び「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」の履行を確保するための監督指導を実施する。</p> <p>2 関係行政機関において相互の連絡会議の開催及び監査・監督結果の相互通報制度等の活用を図るとともに、必要に応じ合同による監査・監督を実施する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 運転者の労働条件の適正化</p> <p>「改善基準」の遵守徹底及び改正「改善基準」の周知</p> <p>○ 拘束時間の縮減 ○ 休息期間の確保 ○ 時間外・休日労働に関する協定の適正化</p> <p>○ 連続運転時間の適正化 ○ 労働時間管理の適正化 ○ 休日の確保</p> <p>2 長時間労働等の是正等過重労働による健康障害防止対策の推進</p> <p>3 年次有給休暇の計画的取得の促進</p> <p>4 自動車運転者を使用する事業場に対する監督指導の実施</p> <p>(1) 労働基準法等の関係法令及び「改善基準」の遵守の徹底指導</p> <p>(2) 割増賃金の適正支払い</p> <p>(3) 運行記録の適正化</p>	

<ul style="list-style-type: none"> (4) 保障給の設定 (5) 就業規則及び賃金台帳の整備 (6) 累進歩合給制度の廃止 <p>5 労働時間管理適正化指導員による法令周知・啓発指導</p> <p>6 関係機関との連携及び相互通報制度の円滑な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 栃木県、栃木運輸支局、栃木県警察本部、労働災害防止団体等関係機関との連携及び相互通報の実施 (2) 栃木県交通労働災害防止関係機関連絡協議会の開催
--

(6) 道路交通に関連する情報の充実

<p>ア 危険物輸送に関する情報提供の充実等</p>	<p>道路管理者・消防防災課</p>
<p>【事業計画の方針】</p> <p>危険物輸送時の事故による大規模な災害を未然に防止し、災害が発生した場合の被害の軽減に資する情報提供の充実等を図るため、イエローカード（危険有害物質の性状、事故発生時の応急措置、緊急通報・連絡先等事故の際に必要な情報を記載した緊急連絡カード）の携行、関係法令の遵守、乗務員教育の実施等について危険物運送事業者の指導を強化する。</p>	
<p>イ 気象情報等の充実</p>	<p>道路管理者・交通規制課 宇都宮地方気象台</p>
<p>【事業計画の方針】</p> <p>道路交通に影響を及ぼす台風、大雨、大雪、竜巻等の激しい突風、地震、火山噴火等の自然現象について、的確な実況監視を行い、関係機関、道路利用者等が必要な措置を迅速にとり得るよう、特別警報・警報・予報等を適時・適切に発表して事故の防止・軽減に努める。また、これらの情報の内容の充実と効果的利活用の促進を図るため、防災関係機関等との間の情報の共有やICTの活用等に留意する。</p> <p>道路の降雪状況や路面状況等を収集し、道路利用者に提供する道路情報提供装置等の整備を推進する。</p> <p>気象、地震、火山現象等に関する観測施設を適切に整備・配置し、維持するとともに、防災関係機関等との間の情報の共有やICTを利用した観測・監視体制の強化を図るものとする。このほか、広報や講習会等を通じて気象知識の普及に努める。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 気象観測予報体制の整備等</p> <p>台風、大雨、竜巻等の激しい突風などの気象現象を早期かつ正確に把握し、適時・適切な特別警報・警報・予報等を発表するため、観測予報体制の強化を図る。</p> <p>2 地震・火山の監視・警報体制の整備等</p> <p>地震・火山による災害を防止・軽減するため、地震・火山活動を常時監視して地震・火山に関する防災情報を適時・適切に発表し、迅速かつ確実に伝達するとともに、主に次のことを行う。</p> <p>(1) 緊急地震速報（予報及び警報）の利活用の推進</p> <p>緊急地震速報（予報及び警報）について、受信時の対応行動等のさらなる周知・広報を行うとともに、交通機関における利活用の推進を図るため、有効性や利活用の方法等の普及・啓発及び精度向上に取り組む。</p> <p>(2) 火山監視体制と噴火時等の避難体制の推進</p> <p>火山活動の監視・評価の結果に基づき、警戒が必要な範囲（この範囲に入ると生命に危険が及ぶ）を明示して噴火警報等を発表するとともに、平常時からの火山防災協議会における避難計画の共同検討を通じて、噴火警戒レベルの改善を推進する。</p>	

3 情報の提供等

交通事故の防止・軽減に資するため、主に次の情報を適時・適切に発表し、関係機関等に迅速かつ確実に伝達する。また、住民に対し、気象庁ホームページや国土交通省防災情報提供センターを通じて気象情報等をリアルタイムで分かり易く提供する。

(1) 気象特別警報・警報・予報等

気象による道路交通障害が予想される時は、適時・適切に気象特別警報・警報・予報等を発表し、防災情報提供システム等を用いて、関係機関に迅速かつ確実に伝達するとともに、報道機関等の協力により道路利用者に周知する。また、雨による災害発生危険度を地図上にリアルタイムに表示する「大雨・洪水警報のキキクル（危険度分布）」や、気象情報における線状降水帯による大雨の可能性についての呼びかけ、積雪・降雪の面的な状況を示す「今後の雪（解析積雪深・解析降雪量・降雪短時間予報）」等についても、気象庁ホームページや報道機関等を通じて道路利用者に周知する。さらに、特に大雪により深刻な道路交通障害が見込まれる場合は、国土交通省と連携し、大雪に対する国土交通省緊急発表を実施し、道路利用者に警戒を呼びかける。

(2) 緊急地震速報（予報及び警報）

地震による道路交通障害が予想される時は、適時・適切に緊急地震速報（予報及び警報）、地震情報等を発表し、防災情報提供システム等を用いて、関係機関に迅速かつ確実に伝達するとともに、報道機関等の協力により道路利用者に周知する。

(3) 南海トラフ地震臨時情報等

気象庁長官は、大規模地震対策特別措置法の規定に基づく地震防災対策強化地域に係る大規模な地震が発生するおそれがあると認める時は、直ちに地震予知情報を内閣総理大臣に報告する。また、南海トラフ沿いで異常な現象を観測した場合や南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合等には、「南海トラフ地震臨時情報」を、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖における大規模地震の発生の可能性が相対的に高まったと評価した場合には「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表し、防災情報提供システム等を用いて、関係機関に迅速かつ確実に伝達するとともに、報道機関等の協力により道路利用者に周知する。

(4) 噴火警報等

火山現象による道路交通障害が予想される時は、平常時からの火山防災協議会で共同検討した避難計画に基づき、当該道路の交通規制等の防災対応がとられるよう噴火警戒レベルを付した噴火警報等を発表する。

また、道路利用者の降灰量に応じた適切な防災行動に資するよう、降灰予報を適時・適切に発表する。

これらの情報を、防災情報提供システム等を用いて、関係機関に迅速かつ確実に伝達するとともに、報道機関等の協力により道路利用者に周知する。

4 気象知識等の普及

運輸事業者や防災機関の担当者に対し、特別警報・警報・予報等の伝達等に関する説明会やワークショップ、気象情報等の利用方法等に関する講習会の開催、広報資料の作成・配布等により、気象、地象、水象に関する知識の普及を行う。

4 車両の安全性の確保

(1) 自動運転車の安全対策・活用の推進

ア 安全な無人自動運転移動サービス車両の実現に向けた取組の促進 イ 自動運転車に対する過信・誤解の防止に向けた取組の推進	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 安全な無人自動運転移動サービス車両の実現に向けた取組の促進 地方部における高齢者等の移動に資する無人自動運転移動サービス車両の実現に向けて、そのような車両の安全性を確保するために、実証実験や技術要件の策定等の取組を促進する。</p> <p>2 自動運転車に対する過信・誤解の防止に向けた取組の推進 自動運転機能が作動する走行環境条件への理解など、自動運転車について、ユーザーが過信・誤解することなく、使用してもらえよう取組を推進する。</p>	
ウ 自動運転車の事故に関する原因究明及び再発防止に向けた取組の推進	栃木運輸支局・交通企画課 交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>自動運転車の事故については、事故発生時の自動運転システムや走行環境の状況、運転者の対応状況等様々な要因が考えられるため、客観性及び真正性を確保した形で総合的な事故調査・分析を実施し、速やかな事故原因の究明及び再発防止に努める。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 自動運転車両による交通事故発生時の詳細な原因究明</p> <p>2 警察庁・交通事故分析センターへの情報提供</p> <p>3 関係機関との情報共有</p>	

(2) 自動車の検査及び点検整備の充実

ア 自動車の検査の充実	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 近年急速に普及している衝突被害軽減ブレーキ等の先進技術の機能維持を図るために、現在の外観確認やブレーキテスト等の測定器を中心とした検査に加え、車両に搭載された車載式故障診断装置（OBD）に記録された不具合の情報を読み取ることによる機能確認を実施するなど、自動車検査の高度化を図る。</p> <p>2 不正改造を防止するため、適宜、自動車使用者の立入検査を行うとともに、街頭検査体制の充実強化を図ることにより、不正改造車両を始めとした整備不良車両及び基準不適合車両の排除等を推進する。</p> <p>3 指定自動車整備事業制度の適正な運用・活用を図るため、事業者に対する指導監督を強化する。さらに、軽自動車の検査についても、その実施機関である軽自動車検査協会における検査体制の充実強化を図る。</p>	
イ 自動車点検整備の充実	栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 自動車点検整備の推進</p> <p>(1) 自動車ユーザーの保守管理意識を高揚し、点検整備の確実な実施を図るため、「自動車点検整備推進運動」を関係者の協力の下に展開するなど、自動車ユーザーによる保守管理の徹底を促進する。</p>	

(2) 自動車運送事業者の保有する事業用車両の安全性を確保するため、自動車運送事業者監査、整備管理者研修等のあらゆる機会を捉え、関係者に対し、車両の保守管理について指導を行い、その確実な実施を推進する。

(3) 車両不具合による事故については、その原因の把握・究明に努めるとともに、点検整備方法に関する情報提供等により再発防止の徹底を図る。

2 不正改造車の排除

(1) 道路交通に危険を及ぼすなど社会的問題となっている暴走族の不正改造車や過積載を目的とした不正改造車等を排除し、自動車の安全運行を確保するため、関係機関の支援及び自動車関係団体の協力の下に「不正改造車を排除する運動」を全国的に展開し、広報活動の推進、関係者への指導、街頭検査等を強化することにより、不正改造防止について、自動車ユーザー及び自動車関係事業者等の認識を高める。

(2) 不正改造行為の禁止及び不正改造車両に対する整備命令制度について、その的確な運用に努める。

3 自動車特定整備事業の適正化及び生産性向上

点検整備に対する自動車ユーザーの理解と信頼を得るため、自動車特定整備事業者に対し、整備料金、整備内容の適正化について、消費者保護の観点も含め、その実施の推進を指導する。また、自動車特定整備事業者における経営管理の改善や生産性向上等への支援を推進する。

4 自動車の新技術への対応等整備技術の向上

(1) 自動車新技術の採用・普及、ユーザーニーズの多様化等の車社会の環境変化に伴い、自動車を適切に維持管理するためには、自動車整備業がこれらの変化に対応する必要がある。よって、関係団体からのヒアリング等を通じ自動車整備業の現状について把握するとともに、自動車整備業の環境整備・技術の高度化を推進する。

(2) 整備主任者等を対象とした新技術研修の実施等により、整備要員の技術の向上を図るとともに、新技術が採用された自動車の整備や自動車ユーザーに対する自動車の正しい使用についての説明等のニーズに対応するため、一級自動車整備士制度の活用を推進する。

5 ペーパー車検等の不正事案に対する対処の強化

民間能力の活用等を目的として、指定自動車整備事業制度が設けられているが、依然としてペーパー車検等の不正事案が発生していることから、制度の適正な運用・活用を図るため、事業者に対する指導監督を引き続き行う。

(3) 自転車の安全性の確保

自転車の安全性の確保	くらし安全安心課・交通企画課 関東経済産業局
【事業計画の方針】 1 自転車の安全な利用を確保し、自転車事故の防止を図るため、自転車利用者が定期的に点検整備や正しい利用方法等の指導を受ける気運を醸成する。 2 近年、自転車が加害者となる事故に関し、高額な賠償額となるケースもあり、こうした賠償責任を負った際の支払い原資を担保し、被害者の救済の十全を図るため、TSマーク付帯保険等の損害賠償責任保険等加入の普及啓発を推進する。 3 夜間における交通事故の防止を図るため、灯火の取付けの徹底と反射器材等の普及促進を図り、自転車の被視認性の向上を図る。	
【事業計画の概要】 1 「栃木県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」に基づき、自転車の点検及び整備の促進を図る。 2 自転車の安全で適正な利用強化の日（毎月8日・休日のときはその前後）における各種活動の促進 3 中学校、高校における主体的な自転車街頭指導と安全点検の推進 4 自転車マナー向上を図るための広報啓発活動の推進	

- 5 自転車事故による被害者を救済（賠償責任補償）するため、TSマーク付帯保険を始めとした各種自転車保険に関して広報し、その加入を促進する。
- 6 夜間における交通事故を防止するため、灯火の取付けの徹底と反射器材等の普及促進を図る。

5 道路交通秩序の維持

(1) 交通の指導取締りの強化等

ア 一般道路における効果的な指導取締りの強化等	交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 交通事故抑止に資する指導取締りの推進</p> <p>(1) 交通事故実態の分析結果等を踏まえ、事故多発路線等における街頭指導活動を強化するとともに、無免許運転、飲酒運転、妨害運転、著しい速度超過、横断歩行者等妨害等違反、交差点関連違反等の交通事故に直結する悪質性、危険性の高い違反、県民から取締り要望の多い迷惑性の高い違反に重点を置いた指導取締りを推進する。</p> <p>(2) 飲酒運転及び無免許運転については、取締りにより常習者を道路交通の場から排除するとともに、運転者に対する捜査のみならず、周辺者に対する捜査を徹底するなど、飲酒運転及び無免許運転の根絶に向けた取組を推進する。また、引き続き、児童、高齢者、障害者の保護の観点に立った指導取締りを推進する。</p> <p>(3) 地理的情報に基づく交通事故分析の高度化を図り、交通指導取締りの実施状況について、交通事故の発生実態等を分析し、その検証結果を取締り計画の見直しに反映させる、いわゆるPDCAサイクルをより一層機能させる。</p> <p>(4) 取締り場所の確保が困難な生活道路や警察官の配置が困難な時間帯においても速度取締りが行える可搬式速度違反自動取締装置の整備拡充を図るなど、より効果的な取締りを行うための資機材の整備に努める。</p> <p>2 背後責任の追及</p> <p>(1) 事業活動に関してなされた過積載、過労運転等の違反については、自動車の使用者等に対する責任追及を徹底するとともに、必要に応じ自動車の使用制限命令や荷主等に対する再発防止命令を行う。</p> <p>(2) 事業者の背後責任が明らかとなった場合は、それらの者に対する指導、監督処分等を行うことにより、この種の違反の防止を図る。</p> <p>3 自転車利用者に対する指導取締りの推進</p> <p>自転車利用者による無灯火、二人乗り、信号無視、一時不停止、ながら運転及び歩道通行者に危険を及ぼす違反等に対して積極的に指導警告を行う。また、これに従わない悪質・危険な自転車利用者に対する検挙措置を推進する。</p> <p>4 特定小型原動機付自転車利用者等の小型モビリティに対する交通指導取締り</p> <p>特定小型原動機付自転車利用者による通行区分違反（歩道通行）、信号無視等の危険性の高い違反に対して検挙措置を講じる。また、特定小型原動機付自転車に該当しない電動キックボードやペダル付き電動バイク等の小型モビリティ利用者による無免許運転、通行区分違反（歩道通行）等の悪質性・危険性の高い違反に対して検挙措置を講じる。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 交通指導取締りの重点的推進</p> <p>交通事故の多角的な分析や地域の交通実態及び取締り要望等に基づき、具体的な取締り計画を組織的に検討し、次の重点に指向した取締りを一層推進する。</p> <p>(1) 悪質違反</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無免許 ・飲酒運転 ・妨害運転 ・過積載 <p>(2) 交通事故に直結する危険な違反</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・速度違反 ・横断歩行者妨害 ・信号無視 ・一時不停止 ・通行禁止違反 ・携帯電話使用等 <p>(3) 円滑な交通を阻害する違反</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車違反 <p>(4) 自転車及びその他の小型モビリティによる悪質性・危険性の高い違反</p> <p>(5) 交通事故の被害軽減を阻害する違反</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートベルト違反 <p>2 死亡事故等の重大事故発生時における緊急対策</p> <p>死亡事故等の重大事故が発生した場合、緊急対策として、その後の続発を抑止するための集中的な取締りを地域住民に見える形で徹底する。</p> <p>3 悪質・危険運転者対策の推進</p> <p>(1) 無免許運転取締りの強化</p> <p>(2) 飲酒運転根絶に向けた検問と取締りの強化</p> <p>(3) 薬物使用の疑いがある運転者に対する厳正な取締りの推進</p> <p>(4) 妨害運転に対する厳正な捜査</p> <p>4 通学路・生活道路等における安全確保の推進</p> <p>可搬式速度違反自動取締装置を効果的に活用し、通学路・生活道路等における安全確保を推進する。</p> <p>5 背後責任の追及と再発防止対策の徹底</p>
--

イ 高速自動車国道等における指導取締りの強化等	高速道路交通警察隊
-------------------------	-----------

<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 高速自動車国道等においては、重大な違反行為はもちろんのこと、軽微な違反行為であっても重大事故に直結するおそれがあることから、交通の指導取締り体制の整備に努め、交通流や交通事故発生状況等の交通の実態に即した効果的な機動警ら等を実施することにより、違反の未然防止及び交通流の整序を図る。</p> <p>2 高速自動車国道等における速度超過の取締りは常に危険を伴うため、受傷事故防止等の観点から、自動速度違反取締装置等の取締り機器の積極的かつ効果的な活用を推進する。</p> <p>3 交通指導取締りは、悪質性、危険性、迷惑性の高い違反を重点とし、特に、著しい速度超過、飲酒運転、妨害運転、車間距離不保持、通行帯違反等の取締りを強化する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 シートベルト全席着用対策の推進</p> <p>関係機関・団体と連携し、サービスエリアやパーキングエリア等における交通キャンペーン等において、シートベルトの高い被害軽減効果を周知するとともに、シートベルトの着用に係る指導取締りを推進し、後部座席を含めたシートベルト全席着用の徹底を図る。</p> <p>2 大型貨物自動車等の事故防止対策の推進</p> <p>大型貨物自動車等による重大事故を防止するため、同車両に対する飲酒運転、著しい速度超過、過積載運転、通行帯違反等の指導取締りや背後責任の追及等、各種法令の積極的な適用に努めるほか、関係機関と連携した事業所等に対する広報啓発活動や行政指導を推進する。</p> <p>3 逆走防止対策の推進</p> <p>逆走事案を防止するため、道路管理者と連携し、逆走事案発生箇所の現場点検や標識・標示の改良を行うほか、逆走の危険性に関する交通安全教育及び広報啓発活動を推進する。</p>

(2) 交通事故事件等に係る適正かつ緻密な捜査の一層の推進

ア 危険運転致死傷罪の立件を視野に入れた捜査の徹底	交通指導課
イ 交通事故事件等に係る捜査力の強化等	
ウ 交通事故事件等に係る科学的捜査の推進	

【事業計画の方針】

- 1 危険運転致死傷罪の立件を視野に入れた捜査の徹底
交通事故事件等の捜査においては、初動捜査の段階から自動車運転死傷処罰法第2条又は第3条（危険運転致死傷罪）の立件も視野に入れた捜査の徹底を図る。
- 2 交通事故事件等に係る捜査力の強化等
交通事故事件等の捜査力を強化するため、捜査体制の充実及び研修等による捜査員の捜査能力の一層の向上に努める。
- 3 交通事故事件等に係る科学的捜査の推進
3Dレーザースキャナやひき逃げ事件等の被疑車両の特定に資する捜査支援システム等、科学的捜査を支える装備資機材等の整備を進め、客観的な証拠に基づいた科学的な交通事故事件等の捜査を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 適正な交通事故事件捜査の推進
適正な交通事故事件捜査を推進するとともに、捜査の合理化の推進、捜査員の捜査能力の一層の向上及び捜査体制の充実に努める。
- 2 緻密な交通事故事件捜査の推進
緻密な交通事故事件捜査を推進するため、警察本部における交通事故事件捜査体制を強化し、警察本部による捜査指揮の下、初動の段階から組織的な捜査を行い、事故原因の徹底究明を図る。また、危険運転致死傷罪の的確な適用に努める。
- 3 ひき逃げ事件等に対する迅速かつ的確な捜査の推進
ひき逃げ事件については、迅速かつ的確な初動捜査を徹底し、早期検挙に努める。

(3) 暴走族等対策の推進

ア 暴走族等追放気運の高揚及び家庭、学校等における青少年の指導の充実	くらし安全安心課・県民協働推進課 交通指導課・教育委員会
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暴走族等（暴走族及び違法行為を敢行する旧車會（暴走族風に改造した旧型の自動二輪車等を運転する者））追放の気運を高揚させるため、報道機関等に対する資料提供を積極的に行い、暴走族等の実態が的確に広報されるよう努めるなど、広報活動を積極的に行う。 2 暴走族等問題と青少年の非行等問題行動との関連性を踏まえ、地域の関連団体等との連携を図るなど、青少年の健全育成を図る観点から施策を推進する。 <p>【事業計画の概要】</p> <p>令和7（2025）年度暴走族等根絶推進強化月間 期 間：6月1日から6月30日までの1か月間 目 的：交通秩序の確立と青少年健全育成の見地から、広く県民の総力を結集して交通秩序と静穏を破壊する暴走族等を追放し、安全で平穏な生活環境を確保すること。</p>	
イ 暴走行為阻止のための環境整備	くらし安全安心課・交通指導課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暴走族等及びこれに伴う群衆のい集場所として利用されやすい施設の管理者に協力を求め、暴走族等をい集させないための施設の管理改善等の環境づくりを推進する。また、地域における関係機関・団体が連携を強化し、暴走行為等ができない道路交通環境づくりを積極的に行う。 2 事前の情報の入手に努め、集団不法事案に発展するおそれがあるときは、早期に暴走族等と群衆を隔離するなどの措置を講ずる。 	

ウ 暴走族等に対する指導取締りの推進	交通指導課・栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暴走族等取締りの体制及び装備資機材の充実を図るとともに、集団暴走行為、爆音暴走行為その他悪質事犯に対しては、共同危険行為等の禁止違反を始めとする各種法令を適用して検挙及び補導を徹底し、併せて解散指導を積極的に行うなど、暴走族等に対する指導取締りを推進する。 2 複数の都道府県にまたがる広域暴走族事件に迅速かつ効率的に対処するため、関係都道府県警察相互の捜査協力を積極的に行う。 3 違法行為を敢行する旧車会員に対する実態把握を徹底し、把握した情報を関係都道府県間で共有するとともに、騒音関係違反及び不正改造等の取締りを推進する。 4 「不正改造車を排除する運動」等を通じ、街頭検査において不正改造車両の取締りを行うとともに、不正改造車両等の押収のほか、司法当局に没収（没取）措置を働き掛けるなど暴走族等と車両の分離を図り、不正改造等暴走行為を助長する行為に対しても背後責任の追及を行う。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 取締り体制の確立と実態把握の徹底 暴走族の実態を踏まえた総合的な取締り体制を確立し、暴走族の実態把握と情報収集を推進する。 2 暴走族取締りの強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 道路交通法等あらゆる法令を積極的に適用して可能な限り現場検挙に努め、その封圧と事件化を図るなど、徹底した検挙活動を推進して組織の解体を図るとともに、タイムリーな広報を実施して「県民の目に見える」取締りを強化する。 (2) 「栃木県暴走族等の根絶の促進に関する条例」の禁止規定に基づく指導取締り及び補導等を強化する。 	
エ 暴走族等関係事犯者の再犯防止	交通指導課・運転免許管理課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暴走族等関係事犯の捜査に当たっては、個々の犯罪事実はもとより、組織の実態やそれぞれの被疑者の非行の背景となっている行状、性格、環境等の諸事情をも明らかにしつつ、グループの解体や暴走族グループから構成員等を離脱させるなど暴走族等関係事犯者の再犯防止に努める。 2 暴力団とかかわりのある者については、その実態を明らかにするとともに、暴力団から離脱するよう指導を徹底する。 3 暴走族等に対する運転免許の行政処分については、特に迅速かつ厳重に行う。 	
オ 車両の不正改造の防止	交通指導課・栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暴走行為を助長するような車両の不正な改造を防止するよう、また、保安基準に適合しない部品等が不正な改造に使用されることがないように、「不正改造車を排除する運動」等を通じ、全国的な広報活動の推進及び企業、関係団体に対する指導を積極的に行う。 2 自動車ユーザーだけでなく、不正改造等を行った者に対して、必要に応じて事務所等に立入検査を行う。 <p>【事業計画の概要】</p>	

- 1 騒音に係る整備不良車両運転、消音器不備等、車両の不正改造等の取締りを強化するとともにガソリンスタンド、自動車部品店、自動車修理業者等については、不正改造用部品販売の自粛、暴走行為を助長する自動車等の不正改造防止の働きかけを行う。
- 2 「不正改造車を排除する運動」等を通じ、関係機関・団体と連携した広報活動を積極的に行う他、不正改造を行なった業者等に対しては、事件化する等して責任を追及する。
- 3 違法行為を敢行する旧車會の実態把握と情報収集を推進する。

6 救助・救急活動の充実

(1) 救助・救急体制の整備

ア 救助体制の整備・拡充	消防防災課
<p>【事業計画の方針】 交通事故の種類・内容の複雑多様化に対処するため、救助体制の整備・拡充を図り、救助活動の円滑な実施を期する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 消防大学校及び消防学校において、救助知識・技術の習得を通じて、救助隊員の資質の向上を図る。 2 消防救助技術大会の開催を支援し、技術の向上と各都市間の相互応援体制・防災連帯意識の高揚を図り、救助体制の整備を一層推進する。 	
イ 多数傷者発生時における救助・救急体制の充実	消防防災課・医療政策課
<p>【事業計画の方針】 大規模道路交通事故等の多数の負傷者が発生する大事故に対応するため、連絡体制の整備、救護訓練の実施及び消防機関と医療機関等の連携による救助・救急体制の充実を図る。</p> <p>【事業計画の概要】 大規模な交通事故等により多数の負傷者が発生した際には、各市町等で締結されている消防相互応援協定等に基づき、より迅速かつ円滑な応援協力体制の整備等を推進する。</p>	
ウ 自動体外式除細動器の使用も含めた心肺蘇生法等の応急手当の普及啓発活動の推進	消防防災課・医療政策課 教育委員会・運転免許管理課
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現場におけるバイスタンダーによる応急手当の実施により、救命効果の向上が期待できることから、自動体外式除細動器（AED）の使用も含めた応急手当について、消防機関等が行う講習会等の普及啓発活動を推進する。 2 心肺蘇生法等の応急手当の知識・実技の普及を図ることとし、消防機関、保健所、医療機関、日本赤十字社、民間団体等の関係機関においては、指導資料の作成・配布、講習会の開催等を推進するとともに、救急の日、救急医療週間等の機会を通じて広報啓発活動を積極的に推進する。 3 応急手当指導者の養成を積極的に行っていくほか、救急要請受信時における応急手当の口頭指導を推進する。 4 自動車教習所における教習及び取得時講習、更新時講習等において応急救護処置に関する知識の普及に努めるほか、交通安全の指導に携わる者、安全運転管理者等及び交通事故現場に遭遇する可能性の高い業務用自動車運転者等に対しても広く知識の普及に努める。 	

<p>5 業務用自動車を中心に応急手当に用いるゴム手袋、止血帯、包帯等の救急用具の搭載を推進する。</p> <p>6 学校においては、教職員対象の心肺蘇生法等の応急手当（AED（自動体外式除細動器）の取扱いを含む。）の研修等の開催により指導力・実践力の向上を図るとともに、中学校、高等学校の保健体育において止血法や包帯法、心肺蘇生法等の応急手当（AEDの取扱いを含む。）について指導の充実を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 傷病者の救命を図るため、救急隊が現場に到着するまでに、現場に居合わせた住民による適切な応急手当の実施が重要であることから、各消防本部が実施する住民に対する応急手当の普及啓発活動等、効果的な取組を一層推進する。</p> <p>2 「救急の日」等の機会を通じて、応急手当の講習会を積極的に開催し、応急手当に関する知識・技術の普及啓発を図る。</p> <p>3 教員を対象とした心肺蘇生法講習会を実施する。</p>	
<p>エ 救急救命士の養成・配置等の促進</p>	<p>消防防災課</p>
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 プレホスピタルケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の充実のため、消防機関において救急救命士を計画的に配置できるようその養成を図り、救急救命士が行える気管挿管、薬剤投与及び輸液などの特定行為を円滑に実施するための講習及び実習の実施を推進する。</p> <p>2 医師の指示又は指導・助言の下に救急救命士を含めた救急隊員による応急処置等の質を確保するメディカルコントロール体制の充実を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 救急現場及び搬送途上における応急処置等の充実を図り、救命効果を更に高めるため、消防職員を（一財）救急振興財団救急救命東京・九州研修所に派遣し、救急救命士を計画的に養成する。併せて国庫補助金制度を活用し、高規格救急自動車、高度救命用資機材等の整備を促進する。</p> <p>2 重度傷病者の救命率の向上を図るため、病院への搬送途上にある救急自動車に乗務している救急救命士が、救急医の指示のもとに特定行為の処置が適切に行えるよう、県、消防機関及び医療機関が緊密な連携を図り、メディカルコントロール体制の整備を推進する。</p> <p>3 令和7（2025）年度（一財）救急振興財団救急救命東京研修所への派遣予定者数 前期8名 後期11名 計19名</p>	
<p>オ 救助・救急用資機材の整備の推進</p>	<p>消防防災課・東日本高速道路</p>
<p>【事業計画の方針】</p> <p>救助工作車や救助資機材を充実させるとともに、救急救命士等がより高度な救急救命処置を行うことができるよう、高規格救急自動車、高度救命処置用資機材等の整備を推進する。さらに、救急医療機関等へのアクセスを改善するため、高速自動車国道における緊急開口部の整備を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>救助工作車、救助・救急資機材等の充実を図るため、国庫補助金制度等の積極的活用を図る。</p>	
<p>カ 消防防災ヘリコプターによる救急業務の推進</p>	<p>消防防災課・医療政策課</p>

<p>【事業計画の方針】 ヘリコプターは、事故の状況把握、負傷者の救急搬送及び医師の迅速な現場投入に有効であることから、ドクターヘリとの相互補完体制を含めて、救急業務におけるヘリコプターの積極的活用を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 消防防災ヘリ「おおるり」の効果的な運用と関係機関相互の連絡協調体制の一層の充実強化を図る。</p>											
<p>キ 救助隊員及び救急隊員の教育訓練の充実</p>	<p>消防防災課</p>										
<p>【事業計画の方針】 複雑多様化する救助・救急事象に対応すべく、救助隊員及び救急隊員の知識・技術等の向上を図るため、教育訓練を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 救助隊員及び救急隊員の知識・技術等の向上を図るため、消防学校消防職員専科教育において、救助科、救急科等の教育訓練を実施し、法令で定める資格を有する救助隊員及び救急隊員の養成を図る。</p> <p>2 消防機関が行う職場における教育訓練を促進するため、訓練の中心となる消防職員を消防大学校救助科、救急科に派遣し、高度な救助、救急技術の習得等を図る。</p> <p>【令和7(2025)年度消防学校教育訓練実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 救助科 21日間×1回 受講予定者 33名 ○ 救急科 41日間×1回 受講予定者 51名 											
<p>ク 高速自動車国道等における救急業務実施体制の整備</p>	<p>消防防災課・東日本高速道路市町</p>										
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 高速自動車国道における救急業務については、東日本高速道路株式会社（以下「高速道路株式会社」という。）が、道路交通管理業務と一元的に自主救急として処理するとともに、沿線市町等においても消防法の規定に基づき処理すべきものとして、両者は相協力して適切かつ効率的な人命救護を行う。</p> <p>2 関係市町等と高速道路株式会社の連携を強化するとともに、高速道路株式会社が自主救急実施区間外のインターチェンジ所在市町等に財政措置を講じ、当該市町等においても、救急業務実施体制の整備を促進する。</p> <p>3 高速道路株式会社及び関係市町は、救急業務に必要な施設等の整備、従業者に対する教育訓練の実施等を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 東北自動車道、北関東自動車道等における円滑かつ確実な救助・救急活動を実施するため、高速自動車国道の沿線消防本部と東日本高速道路株式会社等関係機関並びに各消防本部間の相互連携体制の整備を推進する。</p> <p>〔東北自動車道・北関東自動車道における各消防本部の救助・救急業務の管轄区域〕</p> <table border="1" data-bbox="256 1901 1374 2092"> <thead> <tr> <th>道路名</th> <th>消防本部</th> <th>担当区間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">東</td> <td rowspan="2">佐野市消防本部</td> <td>上り：佐野藤岡IC～館林IC</td> </tr> <tr> <td>下り：佐野藤岡IC～栃木IC</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">栃木市消防本部</td> <td>上り：栃木IC～佐野藤岡IC</td> </tr> <tr> <td>下り：栃木IC～鹿沼IC</td> </tr> </tbody> </table>		道路名	消防本部	担当区間	東	佐野市消防本部	上り：佐野藤岡IC～館林IC	下り：佐野藤岡IC～栃木IC	栃木市消防本部	上り：栃木IC～佐野藤岡IC	下り：栃木IC～鹿沼IC
道路名	消防本部	担当区間									
東	佐野市消防本部	上り：佐野藤岡IC～館林IC									
		下り：佐野藤岡IC～栃木IC									
	栃木市消防本部	上り：栃木IC～佐野藤岡IC									
		下り：栃木IC～鹿沼IC									

北 自 動 車 道	鹿沼市消防本部	上り：鹿沼IC～栃木IC 下り：鹿沼IC～宇都宮IC
	宇都宮市消防局	上り：上河内スマートIC～鹿沼IC 下り：宇都宮IC～矢板IC
	塩谷広域行政 組合消防本部	上り：矢板IC～上河内スマートIC 下り：矢板IC～西那須野塩原IC
	那須地区消防本部	上り：那須IC～矢板IC 下り：西那須野塩原IC～白河IC

北 関 東 自 動 車 道	足利市消防本部	西行き：足利IC～太田桐生IC 東行き：足利IC～佐野田沼IC
	佐野市消防本部	西行き：岩舟JCT～足利IC 東行き：佐野田沼IC～岩舟JCT
	栃木市消防本部	西行き：都賀IC～栃木都賀JCT 東行き：都賀IC～壬生IC
	石橋地区消防 組合消防本部	西行き：壬生IC～都賀IC 東行き：壬生IC～真岡IC
	宇都宮市消防局	西行き：宇都宮上三川IC～壬生IC
	芳賀地区広域行政 事務組合消防本部	西行き：真岡IC～宇都宮上三川IC 東行き：真岡IC～桜川筑西IC

(2) 救急医療体制の整備

ア 救急医療機関等の整備	医療政策課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 休日夜間急患センターの設置等、初期救急医療機関の整備を推進する。</p> <p>2 初期救急医療機関では対応が困難な入院を要する救急患者への診療を行うため、救急医療体制の圏域を設定し、圏域内の医療施設の実情に応じた第二次救急医療体制の確保や、外傷を含む重症及び複数科にまたがる重篤な救急患者への診察を行うための第三次救急医療体制の確保を図る。</p> <p>3 自動車事故被害者の保護の増進の観点から、自動車事故救急患者の受入が多い救急医療機関等に対する救急医療設備の整備を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>救急患者の症状に応じた適切な医療が提供できるよう、初期、二次、三次の救急医療体制を整備する。</p> <p>入院や手術を必要とする重症患者に対応する二次救急医療については、県内を10の救急医療圏に分け、病院群輪番制等の体制により運営を行う。</p> <p>生命に危険のある重篤患者に対応する三次救急医療については、県内5つの救命救急センターが県内全域をカバーし運営を行う。</p> <p>1 第二次救急医療対策費</p> <p>① 病院群輪番制病院運営費補助金 休日夜間における、入院や手術を必要とする重症患者のための救急医療体制を、救急医療圏ごとに病院群の輪番制により確保するための運営費を助成する。</p> <p>② 重症患者受入体制支援事業費補助金 救急搬送による重症患者の受入体制の充実強化を図るため、二次救急医療機関に対して救急搬送の受入数に応じ、助成する。</p> <p>③ 病院群輪番制病院設備整備費補助金 病院群輪番制病院の機能を充実強化するため、病院が行う設備整備事業に対して助成す</p>	

<p>る。</p> <p>④ 救急救命士病院実習受入促進事業費 医療機関において、救急救命士の資格を有する救急隊員が行う、心肺蘇生等の救急救命処置の実習を行うための体制整備を促進することにより、救急業務の高度化と資質の向上を図る。</p> <p>2 第三次救急医療対策費</p> <p>① 救命救急センター運営費補助金等 重篤救急患者の救急医療を確保するため、救命救急センターの運営費等を助成する。</p>	
イ ドクターヘリ事業の推進	医療政策課
<p>【事業計画の方針】 交通事故等で負傷した患者の救命率の向上や後遺症を軽減させるため、医師等が同乗し救命医療を行いながら搬送できるドクターヘリを配備し、地域の実情に応じた体制整備を図る。</p> <p>【事業計画の概要】 平成22(2010)年1月に運航を開始したドクターヘリにより、医師による治療開始までの時間及び搬送時間の短縮を行い、重篤患者の救命率の向上及び後遺症の軽減を図り、本県の救急医療の充実・強化に努める。</p> <p>○ ドクターヘリ運航事業費 医師による治療開始までの時間及び搬送時間の短縮を行い、重篤患者の救命率の向上及び後遺症の軽減を図るため、ドクターヘリを導入する救命救急センターに対し助成する。</p>	

(3) 救急関係機関の協力関係の確保等

救急関係機関の協力関係の確保等	消防防災課・医療政策課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 救急医療施設への迅速かつ円滑な収容を確保するため、救急医療機関、消防機関等の関係機関における緊密な連携・協力関係の確保を推進する。また、救急医療機関内の受入れ・連絡体制の明確化等を図る。</p> <p>2 医師の判断を直接救急現場に届けられるようにするため、救急自動車に設置した自動車電話又は携帯電話により医師と直接交信するシステム（ホットライン）や、患者の容態に関するデータを医療機関へ送信する装置等を活用するなど、医療機関と消防機関が相互に連携を取りながら効果的な救急体制の整備を促進する。</p> <p>3 これらは道路交通に限らず、全ての交通分野における大規模な事故についても同様である。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 救急医療機関と消防機関とが、常に緊密な連携を保つことによって、事故等による傷病者に対する適正な応急処置の実施体制及び迅速かつ適切な搬送・受入体制の整備強化を図る。</p> <p>2 救急隊が傷病者を迅速かつ適切に医療機関に搬送できるよう、「栃木県傷病者搬送・受入実施基準」の運用を通して、救急医療機関と消防機関の連携体制の強化・充実を図る。</p>	

7 被害者支援の充実と推進

(1) 自動車損害賠償保障制度に関する広報啓発等

自動車損害賠償保障制度に関する広報啓発等	栃木運輸支局・交通指導課 くらし安全安心課
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 原則として全ての自動車に対して自動車損害賠償責任保険（共済）の契約の締結が義務づけられており、保険（共済）の期限切れ、掛け忘れに注意が必要であることを広報活動等を通じて広く県民に周知する。</p> <p>2 街頭における監視活動等による注意喚起を推進し、無保険（無共済）車両の運行の防止を徹底する。</p> <p>3 自賠責保険（自賠責共済）による救済を受けられないひき逃げや無保険（無共済）車両による事故の被害者に対する救済制度である自動車損害賠償保障事業についても、交通事故相談、被害者支援の場等を通じて周知を行う。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>指導員制度による監視活動を積極的に推進するとともに、毎年9月に実施している自動車損害賠償責任保険のPR活動の充実強化を図り、付保率の向上に努める。</p>	

(2) 損害賠償の請求についての援助等

ア 交通事故相談活動の推進	くらし安全安心課・市町								
<p>【事業計画の方針】</p> <p>県庁県民プラザや市町において実施している交通事故相談所等を活用し、地域における交通事故相談活動を推進する。</p> <p>1 交通事故相談所等における円滑かつ適正な相談活動を推進するため、交通事故相談所等は、日弁連交通事故相談センター、交通事故紛争処理センター、被害者支援センターとちぎ等の関係機関、団体等との連絡協調を図る。</p> <p>2 交通事故被害者等の心情に配慮した相談業務の推進を図るとともに、相談内容の多様化・複雑化に対処するため、研修等を通じて、相談員の資質向上を図る。</p> <p>3 交通事故相談所等において各種の広報を行うほか、県及び市町等のホームページや広報誌の積極的な活用等により交通事故相談活動の周知を図り、交通事故当事者に対し広く相談の機会を提供する。</p> <p>4 自動車事故被害者が弁護士による自動車事故に関する法律相談・示談あっ旋等を無償で受けられるよう、交通事故相談所等における体制の充実を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>○ 交通事故相談</p> <p>< 県 > 相談受付時間：午前9時～11時30分、午後1時～3時30分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談場所</th> <th>相談場所</th> <th>相談日</th> <th>連絡先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相 談 所</td> <td>広報課県民プラザ 宇都宮市塙田1-1-20 栃木県庁舎本館2階</td> <td>月曜日～金曜日 (祝日及び年末年始を除く)</td> <td>TEL 028-623-2188</td> </tr> </tbody> </table>		相談場所	相談場所	相談日	連絡先	相 談 所	広報課県民プラザ 宇都宮市塙田1-1-20 栃木県庁舎本館2階	月曜日～金曜日 (祝日及び年末年始を除く)	TEL 028-623-2188
相談場所	相談場所	相談日	連絡先						
相 談 所	広報課県民プラザ 宇都宮市塙田1-1-20 栃木県庁舎本館2階	月曜日～金曜日 (祝日及び年末年始を除く)	TEL 028-623-2188						

○ 交通事故相談（巡回相談）

< 県 >

相談受付時間：午前10時～11時、午後1時～2時

巡回相談	相談場所	相談日	予約受付窓口
	那須県民相談室 大田原市本町2-2828-4 県那須庁舎1階	毎月第2・第4水曜日 (祝日及び年末年始を除く)	県民プラザ TEL 028-623-2188

< 市 >

相談受付時間：午前10時～11時、午後1時～2時

(佐野市役所市民生活課は午後1時30分～3時30分)

市名	相談場所	相談日	予約受付窓口
足利市	足利市役所市民相談室 (本庁舎1階)	毎月第1・第3火曜日 (祝日及び年末年始を除く)	県民プラザ TEL028-623-2188
佐野市	佐野市役所市民生活課 (本庁舎5階)	毎月第2金曜日 (祝日及び年末年始を除く)	
小山市	小山市役所市民相談室 (本庁舎2階)	毎月第2・第4火曜日 (祝日及び年末年始を除く)	

イ 損害賠償請求の援助活動等の強化

交通指導課

【事業計画の方針】

警察においては、交通事故被害者に対する適正かつ迅速な救助の一助とするため、救済制度の教示や交通事故相談活動を積極的に推進する。

(3) 交通事故被害者支援の充実強化

ア 自動車事故被害者等に対する援助措置の周知

くらし安全安心課・交通指導課

【事業計画の方針】

独立行政法人自動車事故対策機構による、

- ・交通遺児等に対する生活資金貸付け
- ・自動車事故によって重度の後遺障害（遷延性意識障害）を負った被害者の治療・看護を専門に行う療護施設の設置・運営
- ・自動車事故によって重度の後遺障害を負った被害者に対する介護料の支給並びに短期入院、入所に係る協力病院・施設の指定整備及び費用助成
- ・介護料受給者への個別訪問、それに伴う相談・情報提供等

に関する周知を図る。

【事業計画の概要】

県庁県民プラザや市町において実施している交通事故相談等を活用し、自動車事故被害者等に対する援助措置の周知を行う。

イ 交通事故被害者等の心情に配慮した対策の推進

くらし安全安心課・交通指導課

【事業計画の方針】

1 交通事故被害者等の支援の充実を図るため、自助グループの活動等に対する支援を始めとし

た施策を推進する。

- 2 交通事故被害者等の心情に配慮した相談業務を、警察署の交通課、検察庁の被害者支援員等により推進する。
- 3 関係機関相互の連携を図るとともに、被害者支援センターとちぎ等民間の犯罪被害者支援団体等との連携を図る。
- 4 警察においては、交通事故被害者等に対して交通事故の概要、捜査経過等の情報を提供するとともに、刑事手続きの流れ等をまとめた「被害者の手引」を作成し、活用する。
- 5 ひき逃げ事件、交通死亡事故等の重大な交通事故事件の被害者等については、被疑者の検挙、送致状況等を連絡する被害者連絡制度の適正な運用を図る。
- 6 死亡事故等の被害者等からの加害者の行政処分に係る意見聴取等の期日や行政処分結果についての問い合わせに応じ、適切な情報の提供を図る。
- 7 警察本部交通部の被害者連絡調整官等が、各警察署で実施する被害者連絡について指導を行うほか、各警察署及び関係機関との連絡調整を行うなどして組織的な対応を図るとともに職員に対し交通事故被害者等の心情に配慮した対応を適切に実施するための教養の強化に努める。

【事業計画の概要】

- 1 交通事故被害者等の心情に配慮した相談業務を、県庁県民プラザ及び那須県民相談室等の交通事故相談窓口、警察本部の警察総合相談室、被害者支援センターとちぎ等との連携を図って推進する。
- 2 ひき逃げ事故、交通死亡事故等の被害者等へ、交通事故の概要、捜査経過、被疑者の検挙・送致状況等の情報を提供するとともに、被害者の手引き「交通事故に遭われた方やご家族の方へ」を作成し配布する。
- 3 被害者支援センターとちぎの事業に対し、協力する。

ウ 公共交通事故被害者への支援

栃木運輸支局

【事業計画の方針】

公共交通事故による被害者等への支援の確保を図るため、国土交通省に設置された公共交通事故被害者支援室では、①公共交通事故が発生した場合の情報提供のための窓口機能、②被害者等が事故発生後から再び平穏な生活を営むことができるまでの中長期にわたるコーディネーション機能等を担うこととされていることから、周知を図る。

8 研究開発・調査研究の周知及び活用等

(1) 道路交通の安全に関する研究開発の周知及び活用

道路交通の安全に関する研究開発の周知及び活用

道路管理者・交通規制課
栃木運輸支局

【事業計画の方針】

交通事故の発生要因が複雑化、多様化していること、高齢者人口・高齢運転者の増加、ICTの発展、道路交通事故の推移、道路交通安全対策の今後の方向を考慮して、現在、国及び独立行政法人の試験研究機関等において、特に以下の事項について研究開発が推進されているところであり、これら研究開発の成果等について、県民に対して情報提供して周知を図るとともに、積極的な導入・活用を推進する。

【事業計画の概要】

- 1 交通管理の最適化
交通流・量の積極的かつ総合的な管理を行い、交通の安全性・快適性の向上と環境の改善を

図るため、

- ・交差点での効率的な信号制御を行う最適制御アルゴリズム（処理手順）
- ・交通流の分散等を目的とした、車載装置等への交通情報提供システム
- ・交通公害の低減を目指す迂回情報提供や信号制御手法

を拡充、実施する。

2 歩行者等の支援

高齢者、身体障害者等のため信号機の高度化を図る。

(2) 道路交通事故原因の総合的な調査研究の充実強化

道路交通事故原因の総合的な調査研究の充実強化	交通企画課・交通規制課 くらし安全安心課・道路管理者 栃木運輸支局
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 交通事故の実態を的確に把握し、更なる交通事故死傷者数の削減に向けた効果的かつ詳細な交通安全施策の検討、立案等に資するため、人、道路及び車両について総合的な観点からの事故分析を行う。</p> <p>2 交通事故調査・分析に係る情報を県民に対して提供することにより、交通安全に対する県民の意識高揚を図る。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 道路管理者・交通管理者とのデータマッチングの研究</p> <p>2 各種交通安全対策に資するための分析の研究</p> <p>3 平成26(2014)年に発足した「事業用自動車事故調査委員会」において、事業用自動車の交通事故のうち、社会的影響が大きく、事故原因が自動車運送事業者の組織的・構造的問題に起因する可能性がある、有効な再発防止策を必要とするなどの重大な事案について、事故要因の調査分析と再発防止策の提言を行っていく。</p>	

第2章 鉄道交通の安全

1 鉄道交通環境の整備

(1) 鉄道施設等の安全性の向上	鉄道事業者
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 鉄道施設の維持管理及び補修を適切に実施するとともに、老朽化が進んでいる橋梁等の施設について、長寿命化に資する補強・改良を進める。</p> <p>2 人口減少等による輸送量の伸び悩み等から厳しい経営を強いられている地域鉄道については、安全性の向上に必要な施設・設備の更新等に対して支援を実施する。研究機関の専門家による技術支援制度を活用する等して技術力の向上についても推進する。</p> <p>3 多発する自然災害へ対応するために、防災・減災対策の強化が喫緊の課題となっている。このため、河川に架かる鉄道橋りょうの流出・傾斜対策や鉄道隣接斜面の崩壊による土砂流入対策、地下駅等の浸水対策の強化等を推進する。</p> <p>4 切迫する首都直下地震・南海トラフ地震等に備えて、鉄道ネットワークの維持や一時避難場所としての機能の確保等を図るため、主要駅や高架橋等の耐震対策を推進する。</p> <p>5 駅施設等について、高齢者・視覚障害者を始めとするすべての旅客のプラットホームからの転落・接触等を防止するため、転落・接触事故の発生状況、駅やホームの構造・利用実態、駅周辺エリアの状況などを勘案し、優先度が高いホームでのホームドアの整備を加速化することを目指すとともに、ホームドアのない駅での視覚障害者の転落を防止するため、新技術等を活用した転落防止策を検討する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 東日本旅客鉄道株式会社</p> <p>(1) 線路施設等の改良及び適正保守の推進</p> <p>(2) 橋梁等線路構造物の点検強化及び補修・補強の促進</p> <p>(3) 防災対策の推進</p> <p>(4) バリアフリー設備等の整備</p> <p>(5) 大規模地震に備えた構造物耐震補強の推進</p> <p>2 東武鉄道株式会社</p> <p>(1) 鉄道構造物の点検と管理の強化</p> <p>(2) 旅客用設備等の整備強化</p> <p>(3) 効果的な保線機械の投入</p> <p>(4) 集中豪雨や地震等による法面崩壊を防ぐため、優先順位をつけて法面改修工事を実施</p> <p>3 野岩鉄道株式会社</p> <p>(1) 線路施設等の適正な保守管理の推進</p> <p>(2) 橋梁等線路構造物の点検の強化及び補修の促進</p> <p>(3) 効果的な保線機械の投入</p> <p>(4) 防災対策の推進</p> <p>4 真岡鐵道株式会社</p> <p>(1) 線路施設等の改良及び適正保守の推進</p> <p>・ 軌道保守作業の効率化</p> <p>(2) 橋梁等線路構造物の点検強化及び補修の促進</p> <p>(3) 点検の強化と修繕補強工事の計画実施</p> <p>(4) 鉄道施設耐震構造検討委員会により取りまとめられた新しい耐震基準（平成10(1998)年11月）を新設鉄道構造物に適用すること等により、構造物の耐震性の強化を図る。</p> <p>(5) 重軌条化工事施工</p> <p>(6) 橋梁、線路構造物の強化及び補修の促進</p> <p>(7) 線路の強化（PC枕木化及び道床交換の促進）</p> <p>5 わたらせ渓谷鐵道株式会社</p> <p>(1) 線路施設等の適正保守の推進</p>	

- ・ 軌道保守作業の効率化
 - (2) 橋梁等線路構造物の点検強化及び補修の促進
 - (3) 点検の強化と修繕補強工事の計画実施
 - (4) 鉄道施設耐震構造検討委員会により取りまとめられた新しい耐震基準（平成10(1998)年11月）を新設鉄道構造物に適用すること等により、構造物の耐震性の強化を図る。
 - (5) 橋梁、ずい道等線路構造物の耐震性の強化の促進
 - (6) 重軌条化工事施工
- 6 宇都宮ライトレール株式会社
線路施設等の適正な保守管理の推進

(2) 運転保安設備等の整備

鉄道事業者

【事業計画の方針】

曲線部等への速度制限機能付き自動列車停止装置（ATS）等、運転士異常時列車停止装置、運転状況記録装置等について、法令により整備の期限が定められたもの^{*}の整備については完了したが、整備の期限が定められていないものの整備については引き続き推進を図る。

※1時間あたりの最高運行本数が往復10本以上の線区の施設又はその線区を走行する車両若しくは運転速度が100km/hを超える車両又はその車両が走行する線区の施設について10年以内に整備するよう義務付けられたもの。

【事業計画の概要】

- 1 東日本旅客鉄道株式会社
列車運行の安全確保を図るため、次の設備等について重点的に整備を行う。
 - (1) 信号設備
 - (2) 踏切保安装置
- 2 東武鉄道株式会社
列車運行の安全確保を図るため、次の設備等について重点的に整備を行う。
 - (1) 踏切道の立体交差化及び構造改良
 - (2) 踏切保安装置のさらなる機能向上
 - (3) 踏切非常ボタン、駅非常停止ボタンの機能と使用方法のPR活動
- 3 野岩鉄道株式会社
列車運行の高速化、高密度化に対応するとともに列車運行の安全確保を図るため、次の設備等について重点的に整備を行う。
 - (1) 軌道回路の点検強化及び整備
 - (2) 事故・地震等発生時の早期対応を期する指令体制の強化
 - (3) 異常時対応能力の向上
- 4 真岡鐵道株式会社
列車運行の高速化、高密度化に対応するとともに列車運行の安全確保を図るため、次の設備等について重点的に整備を行う。
 - (1) 軌道回路の点検強化及び整備
 - (2) 踏切道の構造改良化
 - (3) 信号設備改良
 - (4) 踏切保安装置改良
 - (5) 事故等の早期対応を期する指令体制の強化
 - (6) 異常時対応能力の向上
- 5 わたらせ渓谷鐵道株式会社
 - (1) 軌道回路の点検強化
 - (2) 事故等の早期対応を期する指令体制の強化
 - (3) 異常時対応能力の向上
- 6 宇都宮ライトレール株式会社
 - (1) 軌道回路の点検強化

- (2) 事故等の早期対応を期する指令体制の強化
- (3) 異常時対応能力の向上

2 鉄道交通の安全に関する知識の普及

鉄道交通の安全に関する知識の普及	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運転事故の約9割を占める人身障害事故と踏切障害事故の多くは、利用者や踏切通行者、鉄道沿線住民等が関係するものであることから、これらの事故の防止には、鉄道事業者による安全対策に加えて、利用者等の理解と協力が必要である。 2 学校、沿線住民、道路運送事業者等を幅広く対象として、関係機関等の協力の下、全国交通安全運動や踏切事故防止キャンペーンの実施、首都圏の鉄道事業者が一体となって、酔客に対する事故防止のための注意喚起を行うプラットホーム事故0（ゼロ）運動等において広報活動を積極的に行い、鉄道の安全に関する正しい知識を浸透させる。 3 これらの機会を捉え、駅ホーム及び踏切道における非常押ボタン等の安全設備について分かりやすい表示の整備や非常押ボタンの操作等の緊急措置の周知徹底を図る。 <p>【事業計画の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 東日本旅客鉄道株式会社 <ol style="list-style-type: none"> (1) マスコミに対する協力要請 (2) 市町広報紙などへの掲載依頼 (3) 沿線小学校、幼稚園等教育機関に対する協力依頼 (4) 線路巡回パトロールの強化 (5) 啓もう宣伝の強化 (6) 要注意踏切の立哨指導 (7) 施設担当者、請負会社への安全対策の徹底指導 2 東武鉄道株式会社 <ol style="list-style-type: none"> (1) 春と秋に実施される全国交通安全運動にて、踏切通行者および車・自転車等に事故防止を呼びかけるグッズを配布し踏切事故防止活動を展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 警察および各団体の協力を得てグッズを配布 ・ 沿線の小学校等へオリジナル文具セット等を配布し啓発活動を展開 ・ 事故防止啓発用踏切のぼり旗等を設置し啓発活動を展開 (2) プラットホーム事故0（ゼロ）運動等の広報活動を通じて啓発を図る。 (3) その他の機会を捉え、沿線小学校等と連携した啓発活動を実施する。 3 野岩鉄道株式会社 <ol style="list-style-type: none"> (1) 春と秋に実施される全国交通安全運動において、沿線の警察と連携して学校等に対し、広報・啓発活動を実施する。 (2) マスコミに対する協力要請 (3) 沿線小中学校等、教育機関に対する協力依頼 (4) 「夏季及び年末年始輸送の安全総点検運動」等の広報活動を通じて啓発活動を図る。 (5) 施設関係従事員、請負業者等への安全対策の徹底指導 4 真岡鐵道株式会社 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市町広報紙などへの掲載依頼 (2) 要注意踏切の立哨指導 (3) 線路巡回パトロールの強化 5 わたらせ渓谷鐵道株式会社 <ol style="list-style-type: none"> (1) マスコミに対する協力要請 (2) 市広報紙等への掲載依頼 	

<ul style="list-style-type: none"> (3) 沿線小学校、幼稚園等教育機関に対する協力依頼 (4) 線路巡回パトロールの強化 (5) 要注意踏切の立哨指導 (6) 施設担当者、請負業者への安全対策の徹底指導
<p>6 宇都宮ライトレール株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 春と秋に実施される全国交通安全運動において、沿線の警察と連携して、ドライバーや利用客に対し、広報啓発活動を実施する。 (2) マスコミに対する協力要請 (3) 宇都宮市・芳賀町の広報紙などへの掲載依頼 (4) 「年末年始輸送等の安全総点検」を通じた広報・啓発活動

3 鉄道の安全な運行の確保

(1) 保安監査の実施	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 鉄道事業者に対し、計画的に保安監査を実施するほか、重大な事故、同種トラブルの発生時等、特に必要と認める場合にも臨時に保安監査を行う。保安監査の実施にあたっては、メリハリの効いたより効果的な保安監査を実施することにより、鉄道輸送の安全を確保する。保安監査においては、施設及び車両の保守管理状況、運転取扱いの状況、乗務員等に対する教育訓練の状況等を確認し、適切な指導を行うとともに、過去の指導のフォローアップを実施する。</p> <p>2 年末年始の輸送等に関する安全総点検により、事業者の安全意識を向上させる。</p>	
(2) 運転士の資質の保持	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
(3) 安全上のトラブル情報の共有・活用	
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 運転士の資質の向上等を目的として、動力車操縦者運転免許試験の適正な実施をはじめ、動力車操縦者運転免許に関する省令に基づく取組を推進する。また、運転士が作業を行うのに必要な知識及び技能を保有させるための教育及び訓練が適切に実施されるよう運転管理者会議の開催等の機会を捉えて適切に指導する。さらに、入手した運転士の取扱い誤りに原因があるおそれがあると認められる事態の情報については、その情報の共有と活用を図るため、とりまとめを行い、鉄軌道事業者へ周知する。</p> <p>2 鉄道事業者の安全担当者等による鉄道保安連絡会議を開催し、事故等及びその再発防止対策に関する情報共有等を行う。また、安全上のトラブル情報を収集し、速やかに鉄道事業者へ周知・共有することにより事故等の再発防止に活用する。</p> <p>【事業計画の概要】</p> <p>1 東日本旅客鉄道株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 乗務員の資質と技術力の向上、異常時に的確に対応できる乗務員を育成するため、定例的に教育訓練を行う。また、事故防止に関する事項を検討し、効果的な対策の検討を推進する。 (2) 施設、車両の改良に対応して、的確な運用が行なえるよう知識技能の習得について教育訓練の充実を図る。 (3) 事故防止及び異常時対応能力の向上を目的とする教育・訓練の充実を図る。 (4) 定期的に異常時を想定した教育訓練を実施する。 (5) 定期的に適性検査を実施する。 <p>2 東武鉄道株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 異常時総合訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故を想定し各職場が協力して復旧訓練を行う。 	

- ・ 地元消防署と共同で負傷者の救助活動を行う。
- (2) シミュレータによる乗務員への事故対応訓練の実施
- (3) 現業職場において異常時を想定した教育訓練を随時行うほか、定期的にテーマを定め、事故防止、異常時対応教育を行う。
- (4) 他社での事故情報を活用し、自社でのリスク想定を行う。

3 野岩鉄道株式会社

- (1) 乗務員、駅務・施設区員（管理者を含む）に対し、定期的な教育、訓練及び検査等を実施して資質の向上を図る。
- (2) 異常時総合訓練の実施
 - ・ 多種多様の異常事態（事故等）を想定した訓練を行う。
 - ・ 外部（消防、警察、保健所等）より、講師を招いて実技を含めた講義を受ける。
- (3) 現業職場において異常時を想定した実車による教育を随時行うほか、定期的に過去の事故事例を用いて事故防止、異常時対応教育を行う。

4 真岡鐵道株式会社

- (1) 乗務員の資質と技術力の向上、異常時即応体制等事故防止意欲の高揚を図る。
- (2) 事故防止及び異常時処理作業技能の向上を目的とする教育・訓練の充実を図る。
- (3) 定期的に異常時取扱い及び事例の研究を中心とした教育訓練を実施する。
- (4) 定期的に適性検査を実施し、その充実を図る。

5 わたらせ渓谷鐵道株式会社

- (1) 乗務員の資質と技術力の向上、異常時即応体制等事故防止意欲の高揚を図るため、定例的に教育訓練を実施する。また、事故防止検討会等を開催し、事故防止を図る。
- (2) 施設、車両の改良に対応して、的確な運用が行なえるよう知識技能の習得について教育訓練の充実を図る。
- (3) 事故防止及び異常時処理作業能力の向上を目的とする教育・訓練の充実を図る。
- (4) 定期的に異常時取扱い及び事例の研究を中心とした教育訓練を実施する。
- (5) 定期的に適性検査を実施し、その充実を図る。

6 宇都宮ライトレール株式会社

- (1) 運転指令を含む運転士、施設係員に対し、定期的な教育、訓練及び適性検査等を実施して資質の向上を図る。
- (2) 異常時訓練の実施
 - ・ 様々な事故等を想定した訓練を実施する。
 - ・ 所管の警察署や消防署と連携した訓練を実施する。

(4) 気象情報等の充実

鉄道事業者・宇都宮地方気象台

【事業計画の方針】

鉄道交通に影響を及ぼす台風、大雨、大雪、竜巻等の激しい突風、地震、火山噴火等の自然現象についての的確な実況監視を行い、関係機関、乗務員等が必要な措置を迅速にとり得るよう、特別警報・警報・予報等を適時・適切に発表して事故の防止・軽減に努める。

また、これらの情報の内容の充実と効果的利活用の促進を図るため、「道路交通に関連する情報の充実」で述べた気象観測予報体制の整備、地震・火山監視体制の整備、各種情報の提供、気象知識等の普及を行う。特に、竜巻等の激しい突風による列車転覆等の被害の防止に資するため、竜巻注意情報を適時・適切に発表するとともに、分布図形式の短時間予測情報として竜巻発生確度ナウキャストを提供する。また、走行中の列車における地震発生時の転覆等の被害の防止に資するため、緊急地震速報（予報及び警報）の鉄道交通における利活用の推進を図る。なお、噴火警戒レベルに応じて、鉄道事業者等がとるべき防災対応について、平常時からの火山防災協議会における共同検討を通じて合意を図る。

鉄道事業者は、これらの気象情報等を早期に収集・把握し、運行管理へ反映させることで、安全を確保しつつ、鉄道施設の被害軽減と安定輸送に努める。

気象、地震、火山現象等に関する観測施設を適切に整備・配置し、維持するとともに、防災関係機関等との間の情報の共有化やICTを活用した観測・監視体制の強化を図るものとする。

さらに、広報や講習会等を通じて気象知識の普及に努める。

【事業計画の概要】

1 宇都宮地方気象台

道路交通に関連する情報の充実で述べた気象観測予報体制の整備、地震・火山の監視・警報体制の整備、各種情報の提供、気象知識等の普及を行う。

2 鉄道事業者

(1) 東日本旅客鉄道株式会社

ア 気象情報を収集・把握する。防災情報システム（地震・雨量・河川・風速）の情報を列車運行に活用する。

イ 沿線に設置している地震計・雨量計・風速計等の気象情報を基にした、線路巡回等を実施する。

ウ 雨量計・風速計・地震計等の適正管理に努める。

(2) 東武鉄道株式会社

ア 気象台から情報収集の他、民間気象会社と連携した防災管理による早期対応の実施

イ 地震計・雨量計・風速計の適正管理

ウ 「早期地震警報システム」による、防災初動体制の迅速化

エ 大規模河川に設置した監視カメラシステムによる、河川増水時における早期対応の実施

(3) 野岩鉄道株式会社

ア 気象台及び報道機関等の情報を活用し早期に事前対策を行う。

イ 雨量計・風速計・地震計等の適正管理に努める。

ウ 大型地震発生時の対応訓練及び二次災害防止に対する訓練を実施する。

(4) 真岡鐵道株式会社

ア 気象注意報、気象警報等の伝達系統の確立

イ インターネット等を活用しアメダス情報を早期に入手する。

ウ 必要の都度、注意報・警報の伝達事務に関する打ち合わせ会を開催する。

エ 必要の都度、注意報・警報の伝達訓練を行う。

オ 雨量計・風速計・地震計の適正管理に努める。

(5) わたらせ渓谷鐵道株式会社

ア 防災情報システム、地方気象台、インターネット等の情報を活用し、早期対応を行う。

イ 雨量計・風速計・地震計の適正管理に努める。

(6) 宇都宮ライトレール株式会社

ア 気象庁や市、町からの気象情報、インターネット等の情報を活用し、施設管理者と共に早期対策に努める。

イ 鬼怒川橋梁上の風速計の適正な活用に努める。

ウ 緊急地震速報等での安全確保訓練を実施する。

(5) 大規模な事故等が発生した場合の適切な対応

鉄道事業者・関東運輸局鉄道部

【業務計画の方針】

1 国及び鉄道事業者における、夜間・休日の緊急連絡体制等を点検・確認し、大規模な事故又は災害が発生した場合に、迅速かつ的確な情報の収集・連絡を行う。

2 大都市圏、幹線交通における輸送障害等の社会的影響を軽減するため、鉄道事業者に対し、外国人を含む利用者への適切な情報提供を行うとともに、迅速な復旧に必要な体制を整備するよう指導する。

さらに、鉄道事業者に対して、降雪時等において、状況に応じて迅速な除雪が行えるよう、除雪車の出動準備、除雪体制の確認を行い、長時間にわたる駅間停車が発生すると見込まれる場合には乗客の安全確保を最優先とし、運行再開と乗客救出の対応を並行して行うことを徹底するとともに、利用者への適切な情報提供等を行うよう指導する。

【事業計画の概要】

- 1 東日本旅客鉄道株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本に、指令と現場の連絡体制を密にし、常に運転状況を把握するとともに、特に異常時には迅速かつ適切な指示を行うことにより、早期正常化を図るよう指導、管理を行う。
 - (2) 乗務員には、定期的な訓練等を通じて基本動作の励行、技量及び業務知識等のチェックを行い、異常時対応能力の強化を図る。
 - (3) 異常時の取扱い訓練の徹底
- 2 東武鉄道株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本とした運行の確保
 - (2) 緊急時異常時対応体制の強化
 - (3) 厳正な乗務員点呼の励行、添乗強化による基本動作の励行、知識技能取得にかかる教育訓練の徹底
 - (4) 異常時取扱い訓練の徹底
- 3 野岩鉄道株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本とした運行の確保
 - (2) 緊急時・異常時の対応体制の強化
 - (3) 乗務員に対する厳正な点呼の励行、添乗指導による基本動作の励行
 - (4) 知識・技能取得にかかる教育訓練の徹底及び異常時取扱い訓練の徹底
- 4 真岡鐵道株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本に、指令と現場の連絡体制を密にし、常に運転状況を把握するとともに、特に緊急時及び異常時には迅速かつ適切な指示を行うことにより、早期正常化を図るよう指導、管理を行う。
 - (2) 乗務員には、添乗強化により基本動作の励行、技量及び業務知識等のチェックをきめ細かく行うことにより事故防止を図る。
 - (3) 電子閉そく装置の運行管理マニュアルの見直し整備
 - (4) 厳正な乗務員点呼の励行と出先宿泊所における乗務員の休養管理の強化
 - (5) 乗務員無線及び携帯電話機の整備
 - (6) 異常時の取扱い訓練の徹底
- 5 わたらせ渓谷鐵道株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本に、指令と現場の連絡体制を密にし、常に運転状況を把握するとともに、緊急時及び異常時には迅速かつ適切な指示を行うことにより、早期にダイヤ回復するよう指導を強化する。
 - (2) 乗務員に対しては、添乗強化により基本動作の励行、技量及び業務知識等のチェックをきめ細かく行うことにより事故防止を図る。
 - (3) 異常時の取扱い訓練を徹底する。
- 6 宇都宮ライトレール株式会社
 - (1) 安全で安定した輸送を基本とした運行の確保
 - (2) 緊急時・異常時の対応体制の強化
 - (3) 乗務員に対する厳正な点呼の励行
 - (4) 異常時取扱い訓練の徹底

(6) 運輸安全マネジメント評価の実施	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
---------------------	----------------

【事業計画の方針】
 事業者が社内一丸となった安全管理体制を構築・改善し、国がその実施状況を確認する運輸安全マネジメント評価については、運輸防災マネジメント指針を活用し、自然災害への対応を運輸安全マネジメント評価において重点的に確認するなど、事業者の取組の深化を促進する。

(7) 計画運休への取組	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
--------------	----------------

【事業計画の方針】

- 1 鉄道事業者に対し、大型の台風が接近・上陸する場合など、気象状況により列車の運転に支障が生ずるおそれと予測されるときは、一層気象状況に注意するとともに、安全確保の観点から、路線の特性に応じて、前広に情報提供した上で計画的に列車の運転を休止するなど、安全の確保に努めるよう指導する。
- 2 対応に関する情報提供を行うに当たっては、外国人利用者にも対応するため、多言語案内体制の強化も指導する。

4 鉄道車両の安全性の確保

鉄道車両の安全性の確保	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
【事業計画の方針】 発生した事故や科学技術の進歩を踏まえ、鉄道車両の安全対策を進める。	

5 救助・救急活動の充実

救助・救急活動の充実	鉄道事業者・消防防災課・医療政策課 関東運輸局鉄道部
【事業計画の方針】 鉄道の重大事故等に備え、避難誘導、救助・救急活動を迅速かつ的確に行うため、訓練の充実や鉄道事業者と消防機関、医療機関その他の関係機関との連携・協力体制の強化を図る。	
【事業計画の概要】	
1 東日本旅客鉄道株式会社	
(1) 緊急連絡体制の確立 非常参集計画、社員及び関係会社との連絡体制の確立	
(2) 消防機関への協力体制の確立	
(3) 事故復旧時の協力体制の確立 関係会社への協力要請	
2 東武鉄道株式会社	
(1) 緊急連絡体制の確立 非常召集計画、職員、消防機関および関連業者との連絡体制の確立	
(2) 消防機関との合同訓練等による連携協力体制の確認	
(3) 事故復旧時の協力体制の確立 関連業者への協力要請	
3 野岩鉄道株式会社	
(1) 重大事故・災害が発生した場合の非常招集・救援体制マニュアル等の見直し及び整備	
(2) 異常時に対応する訓練・指導を強化	
(3) 関係機関が実施する各種訓練・講習会に積極的に参加し、異常時対応の教育の糧とする。	
4 真岡鐵道株式会社	
(1) 緊急連絡体制の確立 非常召集計画、職員及び関連業者との連絡体制の確立	
(2) 事故復旧時の協力体制の確立 関連業者への協力要請	
(3) 関係機関が実施する各種訓練・講習会に積極的に参加し、異常時対応の教育の糧とする。	
5 わたらせ溪谷鐵道株式会社	

<ul style="list-style-type: none"> (1) 緊急連絡体制の確立 非常招集計画、職員及び関連業者との緊急連絡体制の確立 (2) 医療機関への緊急連絡体制の確立 市医療機関への協力体制の確立 (3) 事故復旧時の協力体制の確立 重機械所有者への協力要請 (4) 消防機関との合同訓練等による連携協力体制の確認
<p>6 宇都宮ライトレール株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 緊急時における緊急連絡体制・救急体制の確立 (2) 事故復旧時の協力体制の確立 (3) 警察・消防機関との合同訓練等による連携協力体制の確認

6 被害者支援の推進

被害者支援の推進	鉄道事業者・関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】 公共交通事故による被害者等に対しては、以下の支援の取組を図る。</p> <p>1 平時における取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 被害者等への支援体制の整備 公共交通事故被害者支援室において、被害者等からの相談を受け付けるとともに、被害者等への支援に携わる職員に対する教育訓練の実施、関係機関等とのネットワーク形成等を図る。 (2) 事業者における支援計画作成の促進 公共交通事業者による被害者等支援計画作成ガイドラインに基づき、事業者に対して計画の策定を促すなど、被害者等に対する支援の充実に向けた取組を図る。 <p>2 事故発生時の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事故発生直後の対応 被害者等に対する窓口を設置し、安否情報・事故情報等の提供に関する被害者等からの要望を関係行政機関、公共機関、地方公共団体及び事業者に伝えること等を通じて、被害者等に役立つ情報を収集・整理し、正確かつきめ細やかな情報を適切に提供する。 また、被害者等が事故現場において行う安否確認等の活動のために必要な支援が確保されるよう、被害者等からの要望を事業者等に伝えて必要な対応を要請し、また、現場における受入体制等に関する情報を被害者等に提供するなど、被害者等への窓口を通じて、被害者等からの問合せ・相談に的確に対応する。 (2) 中長期的対応 公共交通事故被害者等への支援を行う体制において、被害者等のための窓口を設置し、被害者等からの要望を踏まえ、事故調査の状況や規制の見直し、事業者の安全対策に関する説明について必要なコーディネートを図る。また、被害者等からの相談を受け、必要に応じて、事業者が策定する公共交通事故被害者等への支援に関する計画に基づく支援やその他事業者による支援について、事業者に指導・助言を行うとともに、被害者等に対して関係機関や心のケアの専門家を紹介する等の取組を図る。 	

第3章 踏切道における交通の安全

1 踏切道の立体交差化、構造の改良及び歩行者等立体横断施設の整備の促進

踏切道の立体交差化、構造の改良及び歩行者等立体横断施設の整備の促進	鉄道事業者・道路管理者 関東運輸局鉄道部															
<p>【事業計画の方針】 踏切事故の防止及び交通の円滑化を図るため、踏切道改良促進法(昭和36年法律第195号)及び第11次交通安全基本計画に基づき、踏切道の立体交差化、構造の改良、歩行者等立体横断施設の整備及び踏切保安設備の整備等の対策を推進する。</p> <p>【事業計画の概要】 遮断時間が特に長い踏切道(開かずの踏切)や、主要な道路で交通量の多い踏切道等については、抜本的な交通安全対策である連続立体交差化等により、除却を促進するとともに、道路の新設・改築及び鉄道の新線建設に当たっては、極力立体交差化を図る。 加えて、立体交差化までに時間の掛かる「開かずの踏切」等については、早期に安全・安心を確保するため各踏切道の状況を踏まえ、歩道拡幅等の構造の改良や歩行者等立体横断施設の設置、カラー舗装や駅周辺の駐輪場整備、踏切周辺道路の整備、踏切保安設備の整備、踏切横断交通量削減のための車両進入抑制等の踏切周辺対策等の一体対策を推進する。</p> <p>[立体交差化]</p> <table border="1" data-bbox="245 913 1406 1032"> <thead> <tr> <th>路線名</th> <th>工区名</th> <th>整備状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計野崎こ線橋通り</td> <td>野崎(大田原市)</td> <td>用地買収、工事の推進</td> </tr> <tr> <td>県道小山環状線</td> <td>栗宮アンダー(小山市)</td> <td>用地買収</td> </tr> </tbody> </table> <p>列車と車両等の衝突による死傷事故を減らすため、狭小な踏切道や歩道が無い踏切道の拡幅、事故が多発する構造等に課題のある踏切道の対策など、事故防止効果の高い構造への改良を促進する。</p> <p>さらに特定道路や高齢者・障害者の利用がある踏切道において、路面の平滑化や、令和6年1月に改定した「道路の移動等円滑化に関するガイドライン」を踏まえ、特定道路等を優先とした踏切道内誘導表示等の整備等により安全な歩行空間の確保を促進する。</p> <p>以上のとおり、立体交差化等による「抜本対策」と構造の改良等による「速効対策」の両輪による総合的な対策を促進する。</p> <p>[構造改良]</p> <table border="1" data-bbox="245 1447 1406 1525"> <thead> <tr> <th>路線名</th> <th>工区名</th> <th>整備状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国道294号</td> <td>八條(真岡市)</td> <td>工事の推進</td> </tr> </tbody> </table>		路線名	工区名	整備状況	都計野崎こ線橋通り	野崎(大田原市)	用地買収、工事の推進	県道小山環状線	栗宮アンダー(小山市)	用地買収	路線名	工区名	整備状況	国道294号	八條(真岡市)	工事の推進
路線名	工区名	整備状況														
都計野崎こ線橋通り	野崎(大田原市)	用地買収、工事の推進														
県道小山環状線	栗宮アンダー(小山市)	用地買収														
路線名	工区名	整備状況														
国道294号	八條(真岡市)	工事の推進														

2 踏切保安設備の整備及び交通規制の実施

踏切保安設備の整備及び交通規制の実施	鉄道事業者・道路管理者 交通規制課・関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 踏切遮断機の整備された踏切道は、踏切遮断機の整備されていない踏切道に比べて事故発生率が低いことから、踏切道の利用状況、踏切道の幅員、交通規制の実施状況等を勘案し、着実に踏切遮断機の整備を行う。 大都市及び主要な地方都市にある踏切道のうち、列車運行本数が多く、かつ、列車の種別等により警報時間に差が生じているものについては、必要に応じ警報時間制御装置の整備等を進め、踏切遮断時間を極力短くする。 自動車交通量の多い踏切道については、道路交通の状況、事故の発生状況等を勘案して必要 	

に応じ、障害物検知装置、オーバーハング型警報装置、大型遮断装置等、より事故防止効果の高い踏切保安設備の整備を進める。

- 4 高齢者等の歩行者対策としても効果が期待できる、全方位型警報装置、非常押ボタンの整備、障害物検知装置の高規格化を推進する。

なお、これらの踏切保安設備の整備に当たっては、踏切道改良促進法に基づく補助制度を活用して整備を促進する。

- 5 道路の交通量、踏切道の幅員、踏切保安設備の整備状況、う回路の状況等を勘案し、必要に応じ、自動車通行止め、大型自動車通行止め、一方通行等の交通規制を実施するとともに、併せて道路標識等の大型化、高輝度化による視認性の向上を図る。

【事業計画の概要】

1 交通規制課

踏切道の道路環境、交通実態等を勘案し、地元の意見を踏まえつつ、交通の安全と円滑の観点から必要な交通規制を実施する。

2 鉄道事業者

(1) 踏切道の利用状況、幅員、交通規制の実施状況等を勘案し、二輪車等小型の自動車以外の自動車が通行する踏切道については、原則として踏切遮断機を整備し、その他は必要に応じ保安設備を整備する。

(2) 踏切保安設備の外観検査及び動作試験、標識類等の点検整備の強化

(3) 踏切道の冬季対策及び防護柵の巡回点検（野岩鉄道）

冬季の積雪及び結氷による滑り止め剤（融雪剤、砂等）散布をまめに行い、通行車両の脱輪防止及び通行者の転倒防止に努める。また、2か所ある警報装置付落石防護柵の点検強化に努める。

3 踏切道の統廃合の促進

踏切道の統廃合の促進	鉄道事業者・道路管理者 関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 踏切道の立体交差化、構造の改良等の事業の実施に併せて、近接踏切道のうち、その利用状況、う回路の状況等を勘案して、第3、4種踏切道など地域住民の通行に特に支障を及ぼさないと認められるものについて、統廃合を進めるとともに、これら近接踏切道以外の踏切道についても同様に統廃合を促進する。</p> <p>2 構造の改良のうち、踏切道に歩道がないか、歩道が狭小な場合の歩道整備については、その緊急性を考慮して、近接踏切道の統廃合を行わずに実施できることとする。</p>	

4 その他踏切道の交通の安全と円滑化を図るための措置

その他踏切道の交通の安全と円滑化を図るための措置	鉄道事業者・道路管理者 交通指導課・関東運輸局鉄道部
<p>【事業計画の方針】</p> <p>1 緊急に対策の検討が必要な踏切道は、「踏切安全通行カルテ」を作成・公表し、効果検証を含めたプロセスの「見える化」を推進し、透明性を保ちながら各踏切の状況を踏まえた対策を重点的に推進する。</p> <p>2 踏切道における交通の安全と円滑化を図るため、必要に応じて、踏切道予告標、踏切信号機の設置等を進める。</p> <p>3 自動車運転者や歩行者等の踏切道通行者に対し、交通安全意識の向上及び踏切支障時における</p>	

る非常押ボタンの操作等の緊急措置の周知徹底を図るため、踏切事故防止キャンペーンを推進する。加えて、第4種踏切道を横断する歩行者の安全対策の観点から、安全対策を簡易かつ効果的に実施できる設備の導入を推進する。

- 4 学校等において、踏切の通過方法等の教育を引き続き推進するとともに、鉄道事業者等による高齢者施設や病院等の医療機関へ踏切事故防止のパンフレット等の配布を促進する。踏切事故による被害者等への支援についても、事故の状況等を踏まえ、適切に対応していく。
- 5 ICT技術の発展やライフスタイルの変化等、社会を取り巻く環境の変化を見据え、更なる踏切道の安全性向上を目指し、対策を検討する。
- 6 平常時の交通の安全及び円滑化等の対策に加え、災害時においても、踏切道の長時間遮断による救急・救命活動や緊急物資輸送に支障の発生などの課題に対応するため、災害時の管理方法の指定制度に基づき指定した緊急輸送道路上等の踏切道について、道路管理者と鉄道事業者の連携による災害時の踏切優先解放等の措置を確実に実施する取組を進め、災害時の適確な管理を促進する。